



庭の

身近なチョウを楽しもう

チョウ

目次



庭のイモムシなどを見つける

6 - 7 ページ, 30 - 35 ページ

庭のチョウを調べる

17 - 22 ページ

はじめに

近年、多くの生きものが自然環境の悪化によって減少している一方で、さまざまな生きものを守る活動が各地で広がっています。私たち、日本チョウ類保全協会では、チョウをシンボルに、自然を守る活動を進めています。里山から高原・山岳まで多方面の活動を進めるなかで、今回は身近な「庭」という環境に注目しました。

「庭」は特に都市部では貴重な緑地となっており、そこには多くの生きものが生活しています。庭にどのような生きものがいるのかを調べることで、自然環境の現状や移り変わりを知ることができます。そして、庭の環境を少しでも生きものにやさしい環境にすることが、少しずつですが自然を守ることに繋がっていきます。欧米ではバタフライ・ガーデニングという言葉も生まれており、チョウの集う庭づくりを楽しんでいる人々も増えています。

庭のチョウや生きものを眺め、楽しむために、このガイドブックがお役に立つ場面があれば幸いです。

なお、この冊子は積水ハウス株式会社および積水ハウスマッチングプログラムの助成を受けて2014年1月31日に発行した「庭のチョウー身近なチョウを楽しもう」を改訂したもので、今回も積水ハウス株式会社および積水ハウスマッチングプログラムの助成を受けました。



庭のチョウを見つける

4 - 5 ページ, 26 - 29 ページ

チョウの庭づくり

8 - 15 ページ

第1章 庭のチョウを見つけてみよう

庭を訪れるチョウ	4
庭にすむチョウを探そう	6

第2章 チョウの庭づくり

チョウの庭づくりを始めよう	8
庭に植えたい、チョウの食草	10
庭に植えたい、チョウの吸蜜植物	11
実践 チョウの庭づくり	12

第3章 身近なチョウを調べてみよう

庭のチョウ類調査に参加しませんか?	17
どのように調査するの?	20
庭のチョウ類調査 記録用紙	22

第4章 庭から生物多様性を考える

庭からつなげる生物多様性保全	24
庭にもすむ貴重なチョウ	25

第5章 庭でよく見られるチョウ

成虫編	26
卵・幼虫・蛹編	30
よく似た種類の識別ポイント	35
コラム 園芸植物と外来種問題	16
コラム 庭でもっとも見られるチョウは?	23
コラム 絶滅の危機にあるチョウを守る	36
日本チョウ類保全協会への入会案内	37
チョウの飼育方法 Q & A	38
さらに詳しく知るために	39

緑の少ない都市部では、庭の他にも、**校庭や公園、寺社**などが重要な緑地となっており、そこにも多くのチョウが見られます。こうした**都市部の小規模な緑地**は、チョウにとって庭と同様の環境ですので、このガイドブックで紹介した内容は、庭ばかりでなく、**これらの環境でも利用できます**。チョウを呼ぶための緑地を創出する際にも、ぜひご活用ください。また、第3章の庭のチョウ類調査は、こうした**小規模な緑地も調査対象**にしています。

第1章 庭のチョウを見つけてみよう

庭を訪れるチョウ

庭を訪れるさまざまなチョウ。名前や習性が分かれば、日々の楽しみも広がります。ここでは、成虫を観察するためのポイントを紹介します。

①チョウの見られる時期は？

モンシロチョウといえば春のイメージが定着していますが、実際には春から秋まで見られます。東京の都心部では寒い冬を除く3月～11月頃まで、各種のチョウが飛んでおり、沖縄では冬でも姿が見られます。右ページのように、種類によって、現れる時期は異なります。

②チョウの飛ぶ時間帯は？

日中に飛ぶ種類がほとんどで、特に観察しやすい時間帯は10～12時頃です。ただ、真夏の暑い時期には、日中は木陰などで休み、朝夕の涼しい時間帯に活動する種類が多いです。ミドリシジミの仲間のように、早朝や夕方にも活動するものもいます。

③庭で見られるチョウの種類は？

23ページのコラムで紹介しているように、都会の中心部でなければ、一般的に10～30種ぐらいのチョウを観察できます。自然の豊かな場所でチョウを呼ぶための庭づくりをすると、50種以上のチョウを見ることもできます。

④多くの種類のチョウを観察するためには？

種類によって観察できる時期が異なる場合もあるため、年間を通じて観察をすることが大切です。また、森には森の、草原には草原のチョウもいます。近所の公園や田畑、雑木林に足を向けると、さらに多くのチョウを観察することができるでしょう。



チョウの基礎知識ワンポイント

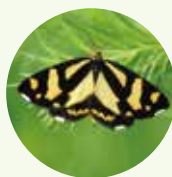
①チョウとガの区別は？

チョウとガは同じ仲間、識別が難しい種類も多いですが、一般的には右のような違いがあります。

なお、右の写真のように、ガにも美しくチョウと紛らわしい種類がいます。



イカリモンガ



キンモンガ

チョウ		ガ
昼	成虫の活動時間	夜（昼に活動するものも少数あり）
約240種	種数（日本）	約6,000種
鮮やかな種類が多い	色彩	地味な種類が多い
触角の先端が太くなる	区別点	触角の先端が細くなる

②チョウの一生

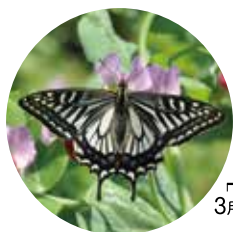
チョウは、卵→幼虫→蛹→成虫と成長します。幼虫は脱皮をしながら成長し、卵から孵化した直後を1齢幼虫、脱皮するごとに、2齢、3齢と呼びます。多くの種類では5齢幼虫を経て、蛹になります。

一世代の期間は種類によって異なり、アゲハやモンシロチョウは短いときには1ヵ月ぐらいで卵から成虫になり、1年に何回も発生します（多化性）。一方、ツマキチョウのように、年に1回しか成虫が現れないチョウもいます（一化性）。庭で見られるチョウの多くは、多化性です。



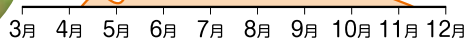
庭でよく見られるチョウとその時期

庭で観察できるチョウには、その庭に生える植物を食べて生まれたもののほか、近くの公園や農地などから飛んでくるものもあります。ここでは観察しやすい代表的な庭のチョウと、それぞれの成虫の東京周辺での主な発生時期を紹介します。なお、全国的に庭でよく観察できるチョウの顔ぶれは、26～29ページにまとめました。

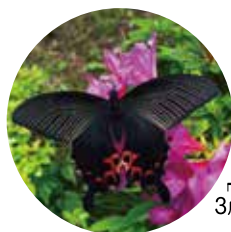


アゲハ

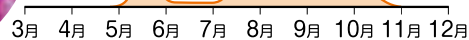
成虫の見られる
時期と個体数の
めやす



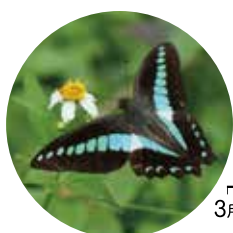
庭木のミカン類やサンショウで発生し、都市部でも見られるお馴染みのチョウで、4～11月まで姿が見られます。



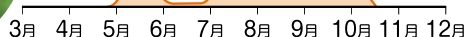
クロアゲハ



庭木のミカン類などで発生し、都会でも見られますが、アゲハより日陰を好み、出現期もやや短く5～10月に現れます。



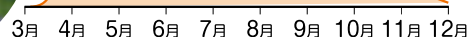
アオスジアゲハ



街路樹や公園に植栽されたクスノキやタブノキで発生し、都市部でも普通に見られます。夏に数が多くなります。



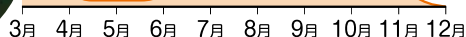
モンシロチョウ



馴染み深い種類で、家庭菜園のキャベツや、庭や公園の野生のアブラナ類で発生し、3～11月まで観察できます。



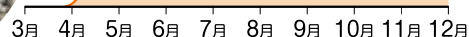
キタキチョウ



庭のハギや、路傍の雑草であるメドハギで発生します。成虫で冬を越すため、冬に草の間で見つかることもあります。



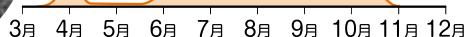
ヤマトシジミ



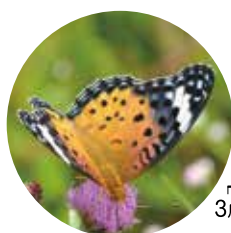
人家や公園で、路肩やコンクリートの隙間などに生えるカタバミでも発生します。4～12月に見られ、秋に増加します。



ルリシジミ



3月に最も早く現れるチョウのひとつで、秋まで見られ、藤棚のフジや、ハギの蕾に産卵し、幼虫は蕾や花を食べます。



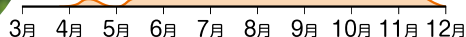
ツマグロヒョウモン



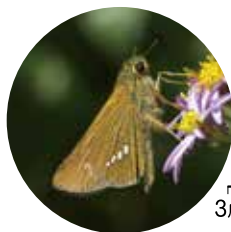
近年分布が北上しているチョウで、スミレ類や花壇に植えられたパンジーでも発生します。秋に個体数が多くなります。



アカタテハ



農地や公園に生えるカラムシで発生し、花の蜜を求めて庭に現れます。秋に数が増え、観察する機会が増えます。



イチモンジセセリ



水田のイネや、イネ科の雑草で発生します。世代を繰り返しながら夏から増え、秋に最も数が多くなります。

第1章 庭のチョウを見つけてみよう

庭にすむチョウを探そう——さまざまなイモムシ

庭で見られるイモムシには、チョウの他、ガやハチなどさまざまなものが含まれています。庭木を丸坊主にしたり、毒を持つ種類もいるなど、人間にとって迷惑なものもありますが、姿の面白い種類も多く、生きもの同士のつながりの上では大切な虫たちです。

さまざまなイモムシたち

■ ……チョウ ■ ……ガ ■ ……ハチ



アゲハ



モンシロチョウ



ヤマトシジミ



ルリタテハ



ヒメジャノメ



イチモンジセセリ



アメリカシロヒトリ



マイマイガ



クロシタアオイラガ



セスジスズメ



ミノウスバ



オオミズアオ



コスズメ



ドクガ



ギンシャチホコ



チュウレンジバチ

◆イモムシの見分け方

ハチにも幼虫が葉を食べるイモムシ形のものがいます。ハバチ類の幼虫とチョウ・ガの幼虫とは、腹部にある脚の数が異なることで見分けることができます。右図のように、チョウとガは腹脚が1～4対、ハバチでは通常5～7対です。庭でも、ツツジ類につくルリチュウレンジなど、数種類のハバチが普通に見られます。

一方、チョウとガの幼虫は、そもそも同じ仲間なので非常に似ており、ひとつの特徴だけで区別することは困難です。慣れてくると、幼虫の形の特徴から見分けられるようになります。また、幼虫がいる植物(食草)も、大きな手がかりとなります。

なお、ガの幼虫には少数ですが毒のある種類もあり、触る時には注意が必要です。



チョウ類 (サトキマダラヒカゲ)



ハバチ類

庭にすむチョウを探そう——幼虫や卵・蛹

チョウの卵・幼虫・蛹を探す第一歩は、チョウの幼虫の食べる植物（本書では草も樹木も合わせて「食草」と呼びます）を知ることから始まります。

チョウの食べる植物がわかったら、下のヒントをもとに幼虫を探してみましょう。

①食べた痕を手がかりに！

草木の葉に穴や傷がある時は、何かの虫に食べられた痕です。葉が食べられていれば、そのまわりに幼虫がついていないか探してみましょう。幼虫は硬い葉よりも柔らかい葉を好むため、柔らかい葉を中心に探します。花や蕾のみを食べる種類もあります。幼虫の食べ痕には特徴があり、食べ痕だけで種類がわかるものもあり、いちど見つけると、慣れてきて次々と見つかるようになります。また、シジミチョウの仲間では、幼虫の蜜を求めてアリが集まっていたり、アゲハチョウなど大型の種類では地面や葉に落ちた黒い糞が目立つため、それらも幼虫を探す手がかりになります。



ヒオドシチョウの幼虫と食痕

②幼虫は巣を作る場合も

セセリチョウの仲間の幼虫は、葉を綴って作った巣の中にいます。タテハチョウやシジミチョウの仲間にも、特徴的な巣を作る種類がいます。巣の特徴を覚えると、幼虫を見つけやすくなります。



ムラサキシジミの幼虫とアリ

③卵は新しい葉を中心に

多くのチョウは、卵を植物の葉に産みます。このとき、幼虫が食べやすいように新しい葉に産むことが多いため、卵を探すときは、草木全体ではなく、新しく柔らかい葉を中心に探します。ただし、なかにはムラサキシジミのように新芽付近に産むもの、ツマグロヒョウモンのように食草の周辺の枯れ枝などに産むものもいます。



イチモンジセセリの巣と巣内の幼虫

④蛹は難しい

蛹は、卵や幼虫と比べて数が少なく、たいていは食草から離れた目立たない場所にあります。そのため、蛹を見つけることは難しいですが、アゲハやモンシロチョウは食草の枝や、付近の家の壁などで見つけることができます。



⑤冬に見つけやすい種類も

チョウの冬越し方法（越冬態）は、種類によってさまざまです。例えば、アゲハやモンシロチョウは蛹、キタキチョウやキタテハは成虫、ツマグロヒョウモンは幼虫で冬を越します。

冬越しはしっかり身を守る場所で行われるため、チョウを見つけることは難しくなりますが、エノキを食べるゴマダラチョウの幼虫は、冬には根元に下りて落葉の裏でじっとしているため、見つけやすくなります。



アカタテハの巣と巣内の幼虫

⑥生態を知ることが大切

それぞれの種類の生態を知ると、探し方のヒントがわかります。30～35ページによく見られるチョウの卵・幼虫・蛹を紹介しました。



エノキの根元のゴマダラチョウ幼虫

※イモムシについてさらに詳しく知りたい時のために、39ページに関連する本を紹介しています。

第2章 チョウの庭づくり

チョウの庭づくりを始めよう

ここでは、チョウと呼ぶ庭づくりの方法を簡単に紹介します。日本ではまだ広がっている途上ですが、バタフライ・ガーデニング（Butterfly Gardening）という言葉は、アメリカやヨーロッパではすでに普及し、多くの本も出版されています。

① 幼虫の餌となる植物を植えよう



パンジーの花壇はツマグロヒョウモンの発生場所になる

★チョウの幼虫は特定の植物（食草）を食べて育ちます

- 身近なチョウの代表的な食草 → 10 ページ
- さらに多くの種類の食草 → 26 ～ 34 ページ

庭でチョウが育つようにしようと思えば、幼虫の食べる植物（食草）を植えることが必要です。庭という空間だけではスペースも限られるため、家の周辺の広い範囲にどのような種類のチョウが生息しているのかを調べ、効果的な植物を揃えていくのが近道です。

また、チョウの幼虫は、新しい葉を好む傾向があるため、クスノキやアラカシなどの樹木は、定期的に思い切った剪定をすることで新芽が出て、チョウが産卵しやすくなります。

② 蜜を吸う植物を植えよう

★チョウが集まりやすい花を植える

→ 11 ページ

チョウの成虫が蜜を吸う植物（吸蜜植物）は、さまざまな時期に咲く花をそろえることが大切です。園芸店では多くの花が販売されていますが、チョウの集まりやすい種類があり、代表的なものを 11 ページで紹介しています。

チョウは赤、白、黄色などの色の花に集まりやすい傾向があり、花の時期や栽培の容易さなどを考えながら、植えるのも楽しみのひとつです。

★樹液や果実に集まるチョウもいる

花の蜜を吸わず、樹液や果実などに集まるチョウもいます。カキやイチジクを植えておくと、キタテハやウラギンシジミなどが集まります。また、チョウの餌台を作って、定期的に果実を置くことも有効です。



花壇には多くのチョウが集まる



カキの実の汁を吸うシタテハ



餌台に置いたバナナに集まるチョウ

◎都市部の庭ではチョウが少ないことから食草を植えることに、家の周りに自然が豊かな場合には吸蜜植物を植えることに重点を置こう。

③生きもののすみやすい庭にしよう

★チョウは庭全体を利用する

チョウがすみやすい環境には、食草と吸蜜植物ばかりではなく、多様な環境が備わっていることも必要です。ゴマダラチョウの幼虫がエノキの根元の葉裏で越冬したり、多くのチョウが食草以外で蛹になるなど、チョウは庭全体を利用します。このため、庭全体の手入れも、生きものに気をつけながら適度に行うことが必要になってきます。

★チョウの幼虫は多くの天敵に狙われる

一様な環境では、幼虫はすぐに天敵に食べられてしまいます。そのため、植栽する樹木も丈の低いものから高いものまでさまざまで、日向も日陰も見られる、やや自然に近い環境を創出することが大切です。

★殺虫剤や農薬などの使用はできるだけ避ける

園芸用の農薬や殺虫剤の中には、ネオニコチノイド系など浸透移行性のものがあり、使用場所の周辺の植物も、根から農薬を吸収するため、食べたチョウの幼虫が死滅してしまいます。一度利用すると、長期間にわたって庭でチョウが育つこと自体が難しくなるため、農薬の利用はできるだけ避けることが大切です。また、広域でのアメリカシロヒトリの一斉防除などにも注意が必要です。



さまざまな草木を植えた庭



クモに食べられるキアゲハの幼虫 アメリカシロヒトリの防除

④生物多様性に配慮しよう

★庭から生物多様性の保全につなげていこう

→ 24 ~ 25 ページ

近年環境の悪化に伴って、野生生物が大きく減少しています。チョウの庭づくりが自然環境の保全に少しでもプラスになるよう、チョウだけではなく、さまざまな生きもののすめる庭づくりを進めていきましょう。

★野生植物に悪影響を与えない注意を

以前園芸植物として利用されたオオハンゴンソウやオオキンケイギクは、野生に広がり貴重な自然植生の中にも侵入するなど、環境を悪化させています。そのため、園芸植物を利用する際には、自然に悪影響を与えない種類を利用することが必要です。詳しくは 16 ページをご覧ください。

★植える植物に注意を

庭に植える植物は、植物に悪影響を与えないように掘り取りは避けて、種子やむかごを採取することや、遺伝的な攪乱に配慮して、なるべく近くの植物を利用することなど、慎重な配慮が必要です。



庭で羽化した絶滅危惧種チョウセンアカシジミ



特定外来生物に指定されたオオキンケイギク

◎チョウの庭づくりの実例を、
12 ~ 15 ページで紹介しています。

第2章 チョウの庭づくり

庭に植えたい、チョウの食草

身近に見られるチョウを庭に呼ぶために、お薦めの食草です。

ここでは代表的なものしか紹介できないため、

第5章 26～34 ページもあわせてご参照ください。



ミカン類

ナツミカン、ユズなど多くの栽培品種がある。アゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハなど多くのアゲハチョウ類が利用する。



サンショウ

アゲハやカラスアゲハなど多くのアゲハチョウ類が利用する。類似のカラスザンショウは生長が早く、葉も大きい。



シロツメクサ

別名クローバー。モンキチョウやツバメシジミが利用する。公園や荒地によく生える。吸蜜植物としても利用される。



パセリ・イタリアンパセリ

庭に植えるとキアゲハが飛んできて産卵する。株数が少ないと、すぐに葉を食べ尽くしてしまうので注意が必要。



ハボタン

冬～春にかけて彩りゆたかな葉を觀賞する花壇の定番。春に花茎が伸びて開花する頃に、モンシロチョウがよく利用する。



ハギ類

多くの園芸品種があり、キタキチョウ、ルリシジミ、ツバメシジミ、ウラナミシジミなど、植えると多くのチョウが集まる。



カタバミ

道端のコンクリート脇、荒地に普通に生える。日当たりの良い場所では、ヤマトシジミがすぐ利用できるようになる。



パンジー・ビオラ

ツマグロヒョウモンがよく利用する。野生のスミレ類は、他のヒョウモンチョウ類にも利用されることが多い。



エノキ

ゴマダラチョウやテングチョウ、外来種アカボシゴマダラが利用する。生長が早く、数年で屋根に届くほど大きくなる。



クスノキ・ゲッケイジュ

アオスジアゲハが利用する。クスノキは大きくなるため、スペースが狭い場合には、ゲッケイジュの鉢植えなどが向く。



ウマノスズクサ

ジャコウアゲハが利用し、植えると集まることがある。少ない植物だが、河川堤防などの日当たりのよい草地に生える。



ススキ・チガヤ

草地に生えるイネ科植物は、イチモンジセリやヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメが利用する。



ホトギス

ルリタテハが利用し、半日陰の場所に植えるとよく産卵する。花も美しいことから、主に園芸品種が販売されている。



フジ

ルリシジミやウラギンシジミが開花期に利用する。花が美しく、つる植物なので棚を組んだ状態で利用されることが多い。



アラカシ

生垣などによく利用される。ムラサキシジミが新葉を利用するため、定期的に剪定することで利用頻度が高くなる。



カラムシ

アカタテハが利用する。荒地や耕作地周囲によく生える。日当たりの良い場所に植えるとよいが、繁殖力が強いので注意。

庭に植えたい、チョウの吸蜜植物

年間を通じて花が咲くように、そろえることがポイントです。

いずれの植物も栽培は容易ですが、

より詳しい栽培方法などは園芸植物の本やウェブサイトをご参照ください。



🌸 **ショクカサイ (ムラサキハナナ)**

【花期】3～5月 菜の花に似た四弁の薄紫色の花が1ヵ月位次々に咲く。ツマキチョウなどが食草として利用する。



🌸 **ツツジ類**

【花期】4～6月 サツキなど数多くの園芸品種があり、鉢植えも庭植えも可能。各種のアゲハチョウ類がよく集まる。



🌸 **コデマリ**

【花期】4～5月 弧を描いて垂れる枝の上側に白い5弁の小花が集まって咲く。ホシミスジが食草として利用する。



🌸 **ジニア (ヒャクニチソウ)**

【花期】6～10月 強い日差しの下で丈夫に3ヵ月以上咲き続ける。一重咲きで背が高くなる品種がチョウに好まれる。



🌸 **マリーゴールド**

【花期】6～11月 花期が長く丈夫で虫がつきにくい。根に線虫の防除効果があるので作物の間に植えられることもある。



🌸 **オカトラノオ**

【花期】6～7月 白い花穂が虎の尾状に垂れ、半日陰でも栽培できる。ヒョウモンチョウ類がよく集まる。



🌸 **キバナコスモス**

【花期】7～10月 真夏の炎天下にも強く、初夏から秋遅くまで開花する。丈夫で育てやすく、こぼれ種で毎年繁殖する。



🌸 **アベリア**

【花期】5～11月 長期間、釣鐘状の小花が次々に咲き続ける。大気汚染や病害虫に強い。挿し木・株分けで増やせる。



🌸 **ユリの仲間**

【花期】7～8月 オニユリやヤマユリなどにアゲハチョウ類が良く集まる。花卉の斑点は蜜標という目印である。



🌸 **ミソハギ**

【花期】8～9月 湿地に生える野草だが、お盆の仏花に使われるため、よく植栽されている。各種のチョウが集まる。



🌸 **オミナエシ**

【花期】8～10月 秋の七草の一つで、野生種以外に園芸品種もある。黄色い小さな花を多数つけ、各種のチョウが集まる。



🌸 **カクトラノオ**

【花期】8～10月 直立する茎の先に筒形の花を穂状につける。耐寒性が強く、特にアゲハチョウ類がよく集まる。



🌸 **フジバカマ**

【花期】9～11月 秋の七草の一つ。繊細な糸の様な花弁で群がって咲く。葉に芳香あり。アサギマダラが好んで吸蜜する。



🌸 **キクの仲間**

【花期】8～11月 コンギクやヨメナ、シオンなど、小花を多数つけるものに、チョウがよく集まる。丈夫で栽培しやすい。



🌸 **ツワブキ**

【花期】10～11月 常緑で美しいため、日本庭園によく植えられる。花にはキタキチョウやキタテハが好んで集まる。



🌸 **ハイビスカス**

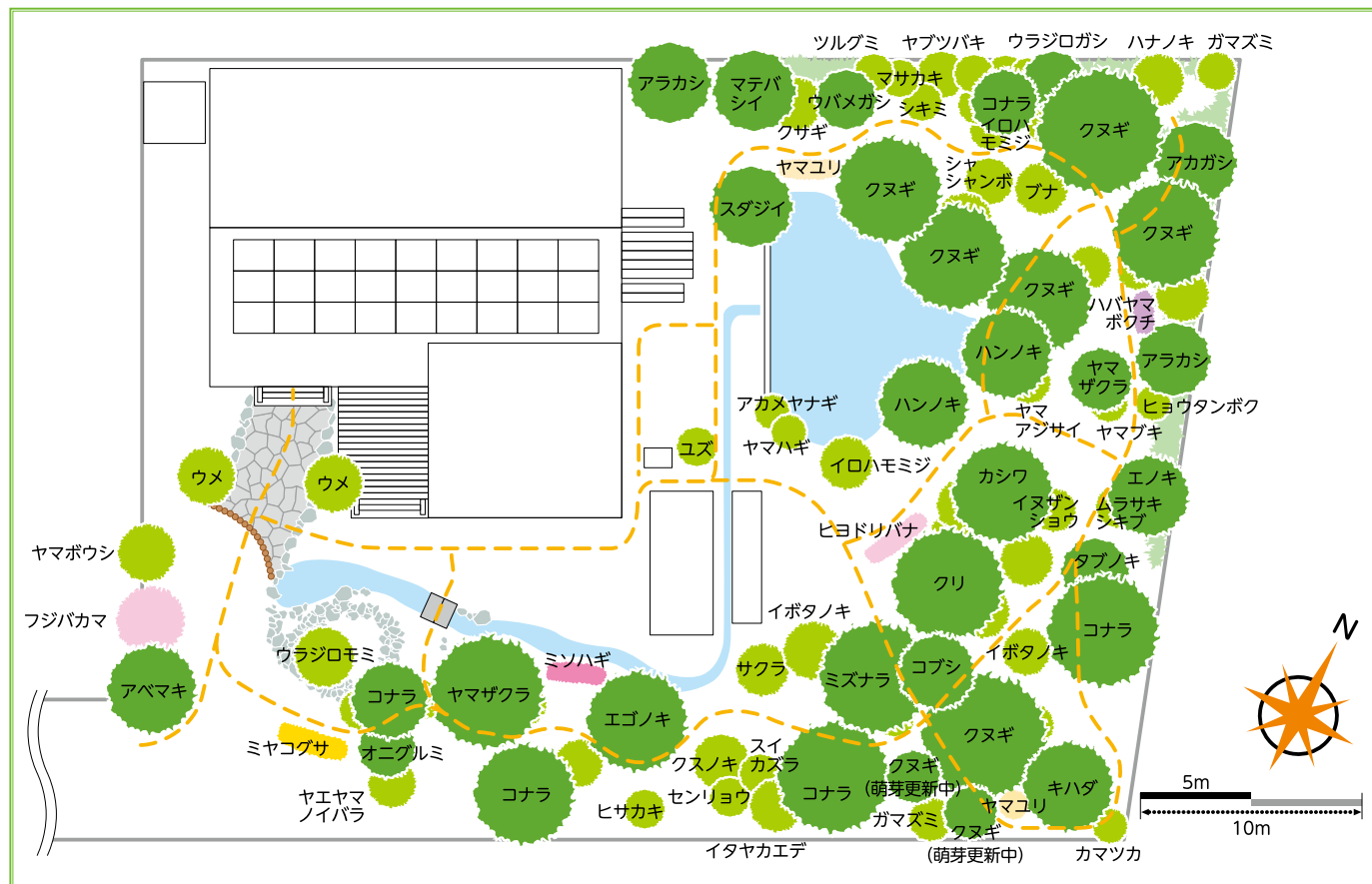
【花期】5～10月 南国の花の代表。交配品種が多い。暖地では庭で栽培でき、アゲハ類やツマベニチョウなどが集まる。

第2章 チョウの庭づくり

実践 チョウの庭づくり

ここでは、チョウの庭づくりをよりイメージしていただくために、チョウの庭づくりを実践されている方をご紹介します。

例1 秋山昌範さんのお庭：茨城県牛久市



◆庭づくりの歴史

- 2003年土地購入時より、住宅建設に先がけ庭づくりを開始。もともとは更地。
- 住宅地に立地しているものの、近所に牛久自然観察の森があり、周囲の自然は豊かである。

◆庭づくりのポイント

- おにぎり型の池を中心に谷戸の地形にし、昭和の里山を再現することを試みた。
- 植物は、人が改良した品種は植えないようにしている。
- クヌギ・クリなどは実生から育て、他の植物もほとんど自然に生えてきたもの、鳥が運んできたもので構成されている。

◆工夫していること

- 落ち葉は、落ち葉プールにためて腐らせ、腐葉土にして循環させている。
- 玄関先の敷石には、鉄平石を敷いている。寒い時期に輻射熱で暖かくなり、チョウ（タテハ類）が日光浴をしに来る。
- チョウの低温期の活動には、陽だまりができることとよいので、北東を閉鎖して、南東を開放するようにしている。

◆その他

- ビオトープの変化として、最近は鳴く虫が増えてきた。それは、草原や木陰ができてきた5年目以降のことである。



オーナーさん ご紹介

秋山昌範さん

デザイン・編集業の傍ら
ビオトープ設計士として
活動しています。昆虫少
年から、徐々に生態系の
保全・創造へと興味が移
りました。



目の高さから見た池、手前はサクラタデ



花壇の植栽もほとんどが原種

庭の全景 池を囲むように、クヌギやコナラ、ハンノキなどの広葉樹が林立する



吸水するミドリシジミ♀



クヌギの樹液にきたチョウ



クヌギの樹液にきたカブトムシ



産卵中のクロスジギンヤンマ

チョウの食草

<草本>

- ・アリアケスミレ他、スミレ類
- ・ヤハズソウ
- ・シロツメクサ
- ・ヤマユリ
- ・ホトトギス
- ・ウマノスズクサ
- ・ミヤコザサ他、ササ類

<木本>

- ・クヌギ
- ・ハンノキ
- ・ユズ他、ミカン類
- ・クスノキ
- ・イボタノキ
- ・エノキ
- ・ブナ
- ・イヌザンショウ

- ・キハダ
- ・タブノキ
- ・アカガシ
- ・アラカシ
- ・コクサギ
- ・コナラ
- ・ミズナラ
- ・ウラジロガシ
- ・スダジイ

- ・マテバシイ
- ・ウバメガシ
- ・カシワ
- ・アベマキ
- ・ガマズミ
- ・ヤマツツジ
- ・ヤマハギ

チョウの吸蜜植物

- ・フジバカマ
- ・ヒヨドリバナ
- ・クサネム
- ・シラヤマギク
- ・ニラ
- ・ミソハギ
- ・ヤクシソウ
- ・ツルボ
- ・コシオガマ

……おすすめの植物

- ・カワミドリ
- ・ユウガギク
- ・ミズキンバイ
- ・フウリンブッソウゲ
- ・ノアザミ
- ・ノダケ
- ・フウロソウ
- ・ヤマユリ
- ・オミナエシ

- ・オトコエシ
- ・サワギキョウ
- ・ウツボグサ
- ・ゴマナ
- ・ヒキオコシ
- ・スイカズラ
- ・ツクバトリカブト
- ・ムラサキキブ
- ・サラシナショウマ

- ・カタクリ
- ・ニリンソウ
- ・クヌギ（樹液）
- ・クリ
- ・クサギ
- ・ヤマツツジ
- ・ヤマザクラ
- ・ガマズミ
- ・サンショウバラ ほか

観察できるチョウ（54種）

- ・アゲハ
- ・キアゲハ
- ・クロアゲハ
- ・カラスアゲハ
- ・ナガサキアゲハ
- ・モンキアゲハ
- ・オナガアゲハ
- ・ジャコウアゲハ
- ・アオスジアゲハ
- ・カタキチョウ
- ・モンシロチョウ
- ・スジグロシロチョウ
- ・モンキチョウ
- ・ツマキチョウ

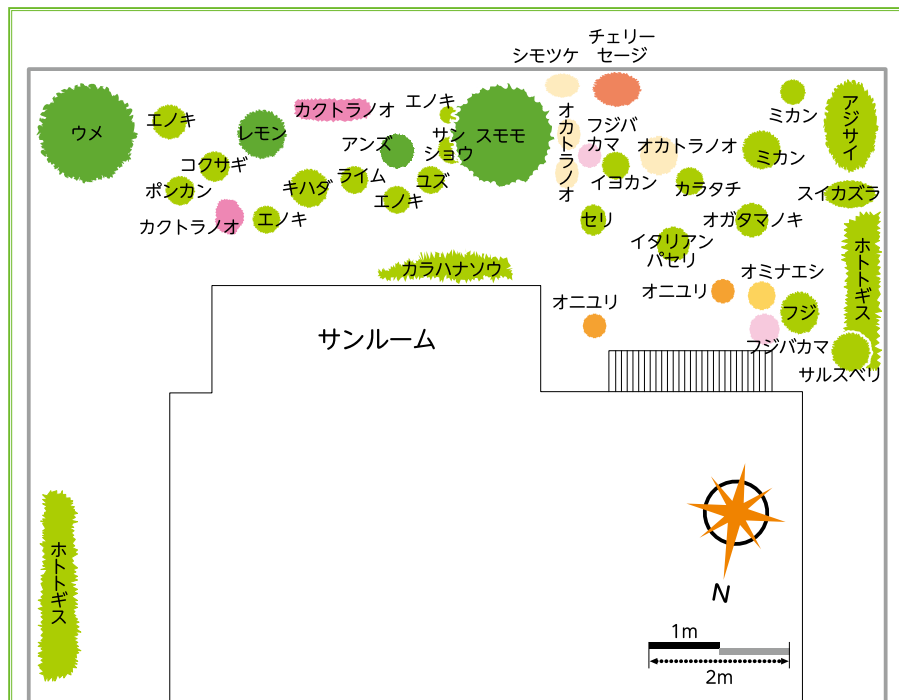
……発生しているチョウ

- ・ウラギンシジミ
- ・ゴイシシジミ
- ・ベニシジミ
- ・ウラナミシジミ
- ・ムラサキシジミ
- ・ムラサキツバメ
- ・アカシジミ
- ・ウラナミアカシジミ
- ・ミズイロオナガシジミ
- ・ウラゴマダラシジミ
- ・ミドリシジミ
- ・ヤマトシジミ
- ・ルリシジミ
- ・ツバメシジミ

- ・テングチョウ
- ・アサギマダラ
- ・メスグロヒョウモン
- ・ミドリヒョウモン
- ・ツマグロヒョウモン
- ・イチモンジチョウ
- ・アサマイチモンジ
- ・コムシジ
- ・キタテハ
- ・ヒオドシチョウ
- ・ルリタテハ
- ・アカタテハ
- ・ヒメアカタテハ
- ・ゴマダラチョウ

- ・ジャノメチョウ
- ・ヒカゲチョウ
- ・サトキマダラヒカゲ
- ・コジャノメ
- ・ヒメジャノメ
- ・クロコノマチョウ
- ・ヒメウラナミジャノメ
- ・ダイミョウセセリ
- ・コチャバネセセリ
- ・キマダラセセリ
- ・イチモンジセセリ
- ・チャバネセセリ

例2 鈴木隆さんのお庭：神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘



玄関の塀の上にはスマイレ類の鉢植えが並ぶ



オカトラノオに来たキマダラセセリ



ミカンで羽化したクロアゲハ



パセリを食べるキアゲハの幼虫



庭の全景 庭木が多く、フジバカマやオニユリが咲く

◆庭づくりの歴史

- 居住したのは30数年前だが、2008年頃よりチョウを意識して植栽を始めた。
- 周りは住宅地だが、北方向には東京よみうりカントリークラブなどゴルフ場や緑地が存在する。

◆庭づくりのポイント

- 庭にチョウが来た時に撮影しやすいよう、花を植えている。
- 花が咲いていないとなかなかチョウが来ないので、春から秋にかけて、それぞれの季節に咲く吸蜜植物を植えている。

◆工夫していること

- 食草に幼虫が発生した時には、そのままにしておくとうや虫にやられてしまうので、飼育・観察することもあり、写真も撮っている。



オーナーさん ご紹介

鈴木 隆さん

10年ほど前、長野県の御泉水自然園で出会ったアサギマダラ、クジャクチョウの魅力に惹かれたのが、この趣味を始めたきっかけ。

チョウの食草

<草本>

- ・スミレ他スミレ類
- ・ホトトギス
- ・ウマノスズクサ
- ・イタリアンパセリ
- ・オニユリ
- ・オミナエシ

- ・ヤマノイモ
- ・カタバミ
- ・カラハナソウ
- ・パセリ

<木本>

- ・イヨカン
- ・カラタチ
- ・ユズ
- ・レモン
- ・ウンシュウミカン
- ・サンショウ

- ・カラスザンショウ
- ・コクサギ
- ・キハダ
- ・エノキ
- ・スイカズラ
- ・ササ類

チョウの吸蜜植物

- ・シモツケ
- ・フジバカマ
- ・オニユリ

- ・カクトラノオ
- ・チェリーセージ
- ・オカトラノオ

- ・オミナエシ
- ・ハナウド
- ・ウツギ ほか

観察できるチョウ (33種: 2008 ~ 2013年)

- ・アゲハ
- ・キアゲハ
- ・クロアゲハ
- ・カラスアゲハ
- ・ナガサキアゲハ
- ・モンキアゲハ
- ・オナガアゲハ
- ・ジャコウアゲハ
- ・アオスジアゲハ

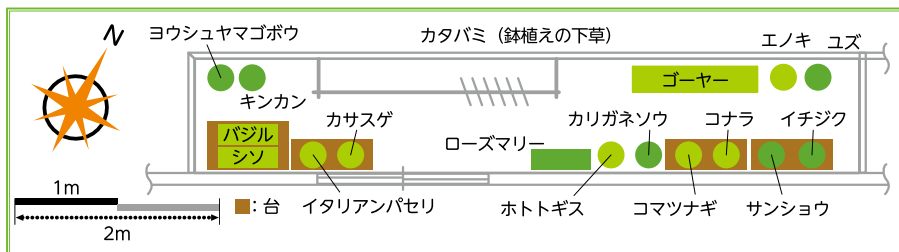
- ・キタキチョウ
- ・モンシロチョウ
- ・ウラギンシジミ
- ・トラフシジミ
- ・ベニシジミ
- ・ヤマトシジミ
- ・メスグロヒョウモン
- ・ミドリヒョウモン
- ・ツマグロヒョウモン

……発生しているチョウ

- ・イチモンジチョウ
- ・コムシジ
- ・キタテハ
- ・ルリタテハ
- ・クジャクチョウ (1回のみ)
- ・アカタテハ
- ・ヒメアカタテハ
- ・ゴマダラチョウ
- ・アカボシゴマダラ (外来種)

- ・ヒメジャノメ
- ・クロコノマチョウ
- ・ヒメウラナミジャノメ
- ・ダイミョウセセリ
- ・キマダラセセリ
- ・イチモンジセセリ

例3 黒坂桐子さんのベランダ: 東京都江戸川区



◆ベランダを利用する

- マンションの3階。周囲の緑は少ない。
- プランターや鉢植えを使ってガーデニングを行っている。好きなものを植えていたらチョウが来るのがわかった。
- 吸蜜植物は少ないが、アゲハやヤマトシジミが産卵に訪れる。



ゴーヤーでよく吸蜜するヤマトシジミ ベランダの様子

◆工夫していること

- チョウが集まるためには、チョウが飛んでいる時に緑を見つけることが必要と考え、台の上に大振りな葉を付ける植物を置くようにしている。
- アゲハは次々と卵を産みにくするため、鉢植えだけではすべてを育てることができない。共倒れしないように、幼虫を一部公園などに放しに出かけている。
- アゲハの幼虫は蛹化前に歩き回るので、水やりなどの際に踏まないように気を付けている。

観察できるチョウ

- ・アゲハ
- ・ナガサキアゲハ

- ・ヤマトシジミ
- ・ツバメシジミ

- ・イチモンジセセリ

チョウの食草や吸蜜植物

- ・キンカン
- ・ユズ
- ・サンショウ
- ・イタリアンパセリ
- ・バジル

- ・コナラ
- ・エノキ
- ・イチジク
- ・カリガネソウ
- ・ヨウシュヤマゴボウ

- ・コマツナギ
- ・アズマネザサ
- ・ホトトギス
- ・シソ
- ・ユキノシタ

- ・カタバミ
- ・ゴーヤー



オーナーさん ご紹介

黒坂桐子さん

子どもの頃はキアゲハの幼虫観察をしていました。チョウの幼虫が葉っぱをムシャムシャと食べる様子を見るのが好きです。



川沿いで野生化するブッドレア(2016年7月 長野県木曽町)

生物多様性の喪失が進んでいます。その要因には、各種開発や里山の荒廃、地球温暖化などがありますが、外来種もその一翼を大きく担っています。

「外来種」とは、「人の活動によって、本来の分布域以外の国や地域に導入（移動）された生物種」のことで、本来の分布域に生息・生育する生物は「在来種」と呼ばれます。

一概に「外来種」といっても、ペットとして輸入されたり、人や

物資の移動に紛れ込むなど、その由来はさまざまです。動物ではアライグマやブラックバスが有名ですが、植物でも、川原を埋め尽くすセイタカアワダチソウの黄色い花はよく知られています。庭の園芸植物も、畑の野菜も大半は外来生物で、外来種をすべてなくすことは現実的ではなく、その必要ありませんが、現に深刻な被害が出ている以上、日本の生態系に悪影響を及ぼす種への対策が必要です。

外来種が引き起こす問題に対応して、日本では「外来生物法」という法律ができました。悪影響が極めて大きい種は「特定外来生物」に指定され、取り扱いが規制されています。また、環境省では特に注意が必要な種を選んだ「生態系被害防止外来種リスト」を2015年3月に公表し、「入れない、捨てない、拡げない」と注意を呼びかけています。

このような取り組みが進む中、このガイドブックの初版で紹介したブッドレア、セイヨウカラシナ、サンジャクバーベナの3種が、その後新たに含まれました。

ブッドレア（フサフジウツギ、中国原産）は、バタフライ・ブッシュとも呼ばれ、花に多くのチョウが集まることから、バタフライ・ガーデニングでは国内外でもっとも利用されてきた植物です。しかし、海外でも野生化が問題になっており、例えばアメリカのオレゴン州では取り扱いが規制されています。日本では、主として河川上流部で野生化し、生態系への悪影響が懸念されていますが、アメリカでも同様です。ブッドレアは、定期的に攪乱を受け、高木が生えない明るい環境で繁殖します。河川沿いでは、水の流れによって種子が運ばれるために、著しく拡散しますが、一方で、庭や公園に植えられたものが、付近で野生化する例はほとんど見られません。それでも、河川の例を踏まえると、予防原則が必要になります。

園芸植物との付き合い方

園芸店にいけば、さまざまな種類の植物を容易に購入することができます。生態系への影響から取り扱いが禁止されている園芸植物は、前述の「特定外来生物」に指定された種のみです。また、植物を国内に輸入するには一定の手続きが必要ですが、そのなかに生態系への影響を評価する項目はないため、生態系への悪影響の是非については、環境省のリストを参照することが必要になります。さらに、現時点では問題化していない種が、将来的に生態系に影響を及ぼす可能性も考えられます。ブッドレアについては、アメリカでは外来種問題に対処するため、種子ができない品種がいくつも開発され、これらが販売されている例もあります。

園芸植物は、そのほとんどが外来種です。外来生物法の指定の有無にかかわらず、日本での野生化や、生態系への影響について、注意してゆかなければなりません。

《参考文献》

環境省・農林水産省、生態系被害防止外来種リスト（ウェブサイトより閲覧可能）

Tallent-Halsell NG et al. (2009) The Invasive *Buddleja davidii* (Butterfly Bush). Botanical Review.

Ream J. (2006) Production and Invasion of Butterfly Bush (*Buddleja davidii*) in Oregon. A PROJECT submitted to Oregon State University, University Honors College and Bioresource Research.

第3章 身近なチョウを調べてみよう

庭のチョウ類調査に参加しませんか？

庭や公園で見られるさまざまなチョウ。名前が分かれば出会いの楽しみが増え、継続して調べると自然環境の変化を知ることができます。ここでは調査要領をまとめました。

初心者でも大丈夫です

この調査では、身近なチョウを通して知ることができる自然環境の変化を、多くの目で継続して明らかにしていこうとしています。普段、庭や身近な緑地で見られるチョウは、20種類程度です。このガイドブックや図鑑などを参考にすれば、最初はわからなくても、すぐにある程度は見分けがつくようになります。

調査対象は、庭と小規模な緑地です。自宅の庭またはベランダ、校庭のほか、住宅地周辺の公園・神社や寺院などが対象になります。

どなたでも参加できます。身近なチョウを通して自然環境を知る輪に参加しませんか？

なぜチョウを調べるの？

鳥や植物、昆虫など、自然界にはさまざまな生きものがすんでいます。生きもののすべてを観察しようとしても、数が多すぎてつかみどころがありませんが、チョウのように名前が調べやすく、また自然環境の変化に敏感な生きものに注目すると、自然環境の変化を、確かなものとして知ることができます。

チョウの中には、近年分布が大きく変わっているものもあります。多くのチョウが減少している一方で、少数ですが、分布を広げているチョウも見られます。ナガサキアゲハやムラサキツバメ、ツマグロヒョウモンなどは、温暖な西日本に分布するチョウで、関東地方ではかつては見られませんでした。2000年頃より分布を拡大し、今では普通に見られるようになりました。これは気候の温暖化が一因であると考えられ、チョウの変化から、自然環境の変化が読み取れる実例となっています。さらに、チョウは幼虫の食草がある庭で育ち、花壇のある庭で蜜を吸うなどして飛び回るため、周辺も含めた自然の現状を知ることができます。

日本チョウ類保全協会では、庭や緑地を通して、身近な自然環境の変化を全国的に明らかにするため、庭のチョウ類調査を2013年より始め、継続しています。

多くのみなさんのご参加をいただくことで、多くの情報が集まり、多くのことがわかります。

ぜひ、ご参加ください。



ナガサキアゲハ



ムラサキツバメ



ツマグロヒョウモン

専門のウェブサイト「庭のチョウ」よりご参加ください

調査への参加および調査結果の報告は、専用のウェブサイト (<https://butterfly-garden.jp/> または、「庭のチョウ」で検索) ができるようになっています。

詳細は次ページでご案内しています。



参加の流れ

画面の操作方法など、詳しくは、ウェブサイトの説明のページ「庭のチョウ類調査とは」をご覧ください。

① 参加登録（アカウントの作成）

調査対象は、自宅の庭またはベランダ、校庭のほか、住宅地周辺の公園、小規模な緑地、神社、寺院など、身近な緑地となります。

最初に、「参加登録」のページから調査者を登録します。メールアドレスを入力し、「登録する」ボタンを押すと、入力したメールアドレスにメールが届きます。そのメールに従って、ユーザー情報を登録します。

② 調査場所の情報の入力

アカウント作成後、調査場所の情報の登録を行います。

登録内容は、「調査場所」「調査頻度」「庭の面積」「庭の緑」「庭の周辺環境」などです。ウェブサイトに従って入力ください。

③ 調査の開始（詳しい調査方法は次ページをご覧ください）

調査は、3月1日～12月31日までの天候の良い日に、1～2週間に1回、30分～1時間程度チョウを観察します。

④ 調査結果の報告

調査終了後、調査結果を、ウェブサイトの「マイページ」内の「記録シート」より入力します。

チョウの個体数は、同時に確認した最大の個体数を入力することに注意します（20～21ページ）。

入力された情報は、その都度自動的にデータベース化され、ウェブサイトのメイン画面の調査結果に反映されます。また、マイページでは、ご自身の「集計シート」に月ごとに、「調査結果」に結果の概要が、自動的にまとめられます。

そのため、調査を行った都度、結果をウェブサイトからご入力いただきますよう、お願いいたします。

毎年1月31日に、年度の更新を行います。そのため、調査結果の最終報告と確認は、1月中にお願いいたします。

※入力したデータは入力後でも、マイページからいつでも修正できます。

「庭のチョウ」ウェブサイトの特徴！

このウェブサイトには、さまざまな機能がついています。

- 自身の調査結果を、いつでも見ることが可能
- 調査結果は月ごとに集計されたり、結果の概要が表示されたりと、庭のチョウの確認状況が一目でわかる
- 成虫だけではなく、幼生期の記録も可能
- 庭のチョウマップや庭のチョウランキングなど、全国的な状況をリアルタイムで表示
- 過去の調査結果も保存され、調査結果をcsv形式でダウンロードすることもできるので、ご自身の庭のチョウの記録ノートとして利用できる



調査方法

【調査場所】

- 自宅の庭またはベランダ、校庭のほか、住宅地周辺の公園、小規模な緑地、神社、寺院など。山に連なった広い森林公園などは除きます。
- ウェブサイトからの調査結果の入力は、一人1ヵ所でのみ可能。庭での調査を主体としているため、庭と公園とが調査候補となる場合には、庭での調査を優先してください。
- 複数のメールアドレスをお持ちの方は、それぞれのアドレスで参加登録をしていただき、庭と公園など、複数の場所で調査し、データを入力いただくことも可能です。

【調査時の記入】

- 調査時には、22ページの「記録用紙」をコピーするか、ウェブサイトからPDFファイルをダウンロードして、結果はまず、紙にご記入ください。その後、結果はその都度、ウェブサイトより入力します。

【調査日と期間】

- 調査日：1～2週間に1回程度の実施。
この頻度で実施できない場合→月に1回以上を目安に実施。
- 調査の実施期間：3月1日～12月31日（チョウの成虫が見られる期間）。地域や標高によってチョウの見られる時期が異なるため、チョウの見られる時期より少し長めに設定。
- 沖縄や小笠原諸島など温暖な地域では、1年中チョウが観察できますので、調査期間は1年中。
- 年間を通しての参加が基本ですが、季節の途中からの参加も可能。

【調査の時間帯】

- チョウが多く見られる時間帯に30分～1時間程度。より長時間実施していただいてもかまいません。
- 外出や帰宅の際に、短時間で思いがけないチョウを見かけた場合
→時間の項目の「短」をチェックして、ぜひ入力してください。
- 観察しやすい時間帯→春や秋なら10～12時頃。
→夏の暑い日は9～10時頃、もしくは夕方の涼しい時間帯。
- ミドリシジミ類など活動時間帯が朝夕に限られる種類については、調査時間を適宜追加。

【天候】

- 基本的に好天時に実施。曇天の場合は20℃以上を目安に実施。
- 調査開始時の天候と気温（日陰で測定）をできるだけ記入。
「快晴」：雲が空に占める割合で0～1割 「晴」：同2～8割 「曇」：同9～10割
晴の時に限り、空に占める雲の割合（%）を記入（大まかな数字でかまいません）。
- 無風または微風時に実施（風が強いとチョウが飛ばなくなるため）。

【チョウの観察時の記録方法】

- 成虫の個体数は、種類ごとに同時に見られた数を順々に記録。最終的に、同時に目撃した最大の個体数に○をつけ、その数字をウェブサイトで入力します（20～21ページに図解）。観察した個体数の合計ではないことに注意。
- 雌雄をはっきり区別できた場合は、雌雄（オス：♂、メス：♀）を区別して記入。
雌雄を無理に区別する必要はありません。
- 成虫の吸蜜植物を観察した場合は、植物名を記入。
- 庭で、卵・幼虫・蛹を観察した場合には、食草の植物名も記録。
もし個体数を数えた場合にはそれも記録する。



第3章 身近なチョウを調べてみよう

どのように調査するの？

ここでは具体的な調査結果の記入方法について、要点を絞ってご説明します。

◆調査実施のポイント

- 晴れの日（曇りの場合は20℃以上）に実施
- 風の強い日は実施しない
- 1～2週間に1回程度実施
- 時間はできるだけ30分以上
- チョウの見られる時間帯（通常、午前10～12時頃）

調査の具体例



◆今回調査した時の条件

- 日付 4月10日
- 時間 10:00～10:30 30分間
- 天候 快晴
- 温度 20℃（調査開始時）

調査
スタート



◆アゲハが1匹（個体）飛来

アゲハが
来たわ！



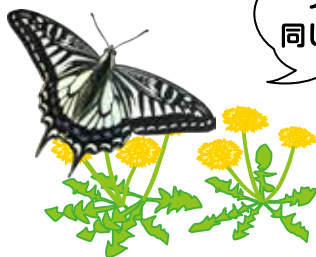
記録シートの
個体数記入欄

1 : .



◆アゲハがまた1匹飛来

さっきの
チョウと
同じかしら？

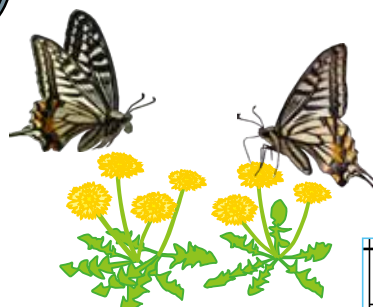


1 : 1 : .



◆アゲハを2匹同時に観察

2匹
いたのね！



1 : 1 : 2

◆調査ポイント：「同時に見られた数を記入」

同じ種類を何回か見かけた場合、同時に見られた数をその都度記入します。数を評価するのに、前後に現れたチョウが同じ個体かどうかを区別するのは難しいためです。



◆アゲハを1匹観察



1 : 1 : 2
1 : .



調査終了

◆今回の調査結果の記入例

庭のチョウ類調査 記録用紙

調査期間

日付	4 / 10
時間	10:00～10:30・短
天候	快晴・晴・曇（雲 %）快
温度	20℃
種名	1 : 1 : 2 1 : .
1 アゲハ	初見日 タンポポで吸蜜
種名	1 : 2 : 2

「記録用紙」の記入例

※3月のデータは省略

調査開始時の気温を記入
(日陰で測定)

調査時間を記入
短時間の場合、「短」にチェック

吸蜜植物、食草、産卵、卵・幼虫・
蛹の確認、初見・終見など

調査開始時の天候を記入
晴の時には雲の割合(%)を記入

庭のチョウ類調査 記録用紙		調査期間 2014 年 3 月 ~ 5 月		場所 庭・その他()	
日付 時間	4 / 10 10:00 ~ 10:30 ・短	4 / 20 : ~ : ・短	5 / 5 11:00 ~ 11:30 ・短	5 / 12 10:00 ~ 11:00 ・短	5 / 25 11:30 ~ 12:00 ・短
天候	快晴 晴・曇(雲%)	快晴・晴・曇(雲30%)	快晴・晴・曇(雲%)	快晴・晴・曇(雲50%)	快晴・晴・曇(雲%)
温度	20℃	℃	18℃	20℃	22℃
種名	1・1・2 1・ 初見日 タンポポで吸蜜	・ ・ ・ ・	2・ ・ ツツジで吸蜜 サンショウへの産卵確認	2・1・ ・ カタバミ・シロツメクサで吸蜜	1・3・1 ・ 幼虫2匹確認(サンショウ)
種名	1・2・2 ・ 初見日	1♂・ ・	1♀ 1♀・ ・ カタバミへの産卵確認	2・4・3 ・ カタバミ・シロツメクサで吸蜜	1・2・1 ・ カタバミで卵と幼虫確認
種名	・ ・	・ ・	1♂・1♂・ ・ すぐに飛んでいった	・ ・	3♂・1♀・2♂1♀ ・ 計3♂1♀ パンジー付近への産卵確認
種名					

調査日ごとに、
最大の目撃個体数に丸をつける

ここがポイント！ 成虫の個体数の入力→同時に見られたもっとも多い数

成虫の調査でもっとも大事なポイントは、同じ個体を重複して数えないよう、同時に目撃した最大の個体数を入力することです。左のように、アゲハが、1 ⇒ 1 ⇒ 2 ⇒ 1と順々に観察された場合、入力する数は、一度に観察した最大の2とします。



これは、前後に現れたチョウが同じ個体かどうか分からないため、誤った数を記録することを避けるためです。もったいないように感じるかもしれませんが、ここで実際よりも多くならないよう慎重になることが、自然科学の調査のうえで重要です。

雌雄を区別できた場合には、オス(♂)、メス(♀)それぞれの数を入力します。区別できなかった場合には、?(オスメス不明)という欄に入力ください。なお、雌雄は無理に識別する必要はなく、ツマグロヒョウモンなど色が大きく異なる種、あるいは産卵しているなど、はっきりと区別できた場合以外は、すべて?で構いません。入力すると総個体数が、自動的に計算されます。

なお、雌雄が区別できた場合、数の合計が前述の説明と異なる場合がありますが、その場合は異なってもかまいません(下図参照)。



合計「1♂ 1♀」の2となり、最大の同時目撃個体数と同じ



合計「1♂ 2♀」の3となり、最大の同時目撃個体数の2よりも多いが、3個体が庭に訪れたことは確実なので3とする



合計「1♂ 1♀ 1性別不明(?)」となるが、この場合「1♂ 1♀」のみを入力し、「計」が2となるようにする(オスメス不明の個体は、他の個体と同じ可能性があるため)

日付 時間	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇	／ ： ～ ： ： 雲（雲 %） 快晴・晴・曇
天候	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）	快晴・晴・曇 （雲 %）
温度	℃	℃	℃	℃	℃	℃
1 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
2 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
3 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
4 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
5 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
6 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
7 種名	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・

庭でもっとも見られるチョウは？

日本全国の庭で、もっとも普通に見られるチョウは何でしょうか。また、ひとつの庭で、どれぐらいの種類のチョウが見られるのでしょうか。

日本での庭のチョウ類の調査は、日本鱗翅学会によって 1997 ～ 2002 年に行われた例があります（石井，2003）。この折には、全国 107カ所で庭の調査が行われました。

庭のチョウランキング

上記の調査で、高い割合で見られたチョウを並べてみました。調査地は必ずしも、全国各地に散らばっていたわけではありませんが、ここに並んだ顔ぶれは、日本でもっとも身近なチョウだといえるでしょう。

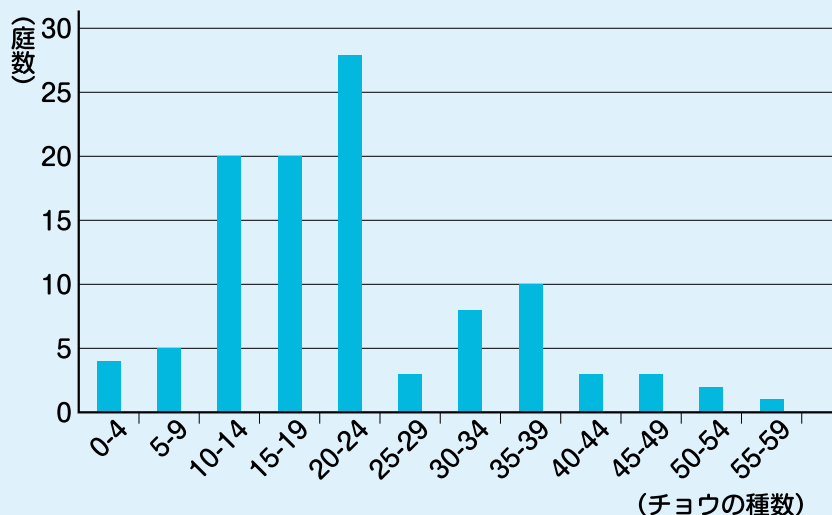


庭で見られるチョウの種数

107 の庭で、見られたチョウの種数がどれぐらいかをまとめてみました。

20 ～ 24 種みられた庭が、28カ所と多く、全体の平均も 22 種でした。

全国的にみると、10 ～ 25 種ぐらいのチョウが見られる庭が多いようです。



自然環境が変化する中で、庭のチョウの顔ぶれも、全国的に変化してゆく可能性があります。実際に、ナガサキアゲハやツマグロヒョウモンなどは、地球温暖化等が原因で、わずか十数年で日本列島を劇的に北上していきました。

庭のチョウ類調査では、多くのみなさんのご参加をいただくことで、チョウを通して、自然環境の変化を継続して明らかにしようとしています。身近なチョウから自然環境の変化を調べる輪に、ぜひご参加ください。

第4章 庭から生物多様性を考える

庭からつなげる生物多様性保全

最近、「生物多様性」という言葉がキーワードとして使われることが多くなってきました。一見、難しそうに思える言葉ですが、さまざまな種類の生きものが、多様な自然環境に生きていることを意味しています。人々が利用する食べ物や衣類から、きれいな空気や水に至るまで、生物多様性は人々に多くの恩恵を与えています。

ここでは、身近な庭から始められる、生きもののすむ庭づくりと、生物多様性の保全とのつながりについて考えてみます。

① 庭の生きものは、生物のつながりを支えています

たとえば、鳥が庭を訪れ、餌を探してはついばむ姿をしばしば見かけます。何もいないように見えても、庭木ではチョウやガの幼虫が育ち、あるいは木々の実を求めて、鳥たちはやってきます。鳥は近隣の庭や公園を、広く渡り歩いて生活しています。このように、庭の生きものは、庭の中でつながりあっているだけではなく、周辺を含めたもっと広い環境とのつながりをもっています。

小さな庭が、生きものたちのつながりを支えているのです。

② 庭の緑地がネットワークのようにつながることで、多くの生物が生きてゆくことができます

それぞれの住宅の庭は、緑地としてみれば小さくささやかなものですが、その小さな庭のひとつひとつが近所どうしで何軒もつながっていれば、生きものにとってはより大きな緑地となります。

たとえば、都会の庭でも姿が見られるアゲハの場合、ある庭では幼虫が徹底して鳥に食べられてしまっても、別の庭では生き残り、成虫になることもあるでしょう。アゲハが成虫になれるかどうかは、環境や天敵の影響の大きさ、あるいは人間の管理方法によって左右され、その時々で庭ごとに異なります。そして、生き残ったアゲハは他の庭へと飛んでゆき、あちこちで産卵します。

このように、アゲハは発生する庭がひとつでなく、多くの庭がネットワークでつながっているからこそ、ずっと生き続けることができます。他の多くの生きものにとっても、このようなつながりが、生きてゆくためにたいへん重要です。

生きもののすむ庭づくりの輪が広がることで、より多くの生きものが、安定してすめるようになるのです。



③ 絶滅が危惧される生きものが庭にすんでいることもあります

多くの生きものが絶滅の危機に瀕しており、それを守ることは、社会的に大きな課題となっています。庭にすむ生きものは、そのほとんどが、広く生息している種類ですが、地域によっては次ページのように、絶滅の危機にある生きものが見られることもあります。

絶滅の危機にある生きものをまとめた本は「レッドデータブック」、そのリストは「レッドリスト」と呼ばれ、環境省や各都道府県で発行されています。これらは、絶滅の危機にある生きものの現状を知る上での参考書となります。

④ 庭の生きものから、自然環境の現状を知ることができます

生物多様性を守っていくためには、日本の自然や生きものたちがどのようなになっているのかを、十分に把握することが必要です。なかでもチョウは、自然環境の変化にいち早く反応するため、生物多様性の指標としてふさわしいことが知られています。つまり、チョウが減っていることは、これからさらに多くの生きものが減る前兆なのです。

環境の変化を自分の目で知り、生物多様性を守る「確かな目」は、身近な庭からも生まれます。庭のチョウ類調査に、あなたも参加してみませんか。

庭にもすむ貴重なチョウ

絶滅の危機にあるチョウ（36 ページ参照）の多くは、限られた場所でしか姿が見られなくなっていますが、時にはそうした種類が庭で見られる場合もあります。ここでは代表的な2種をご紹介します。

チョウセンアカシジミ

環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類

日本では、岩手、山形、新潟の3県にしか生息していない、かなり珍しいチョウです。幼虫はトネリコを食べます。トネリコは、本来は湿地に生えますが、山形県では人家の生垣として利用されている場合があります。チョウセンアカシジミが長年にわたって世代を繰り返してきました。

周囲の湿地などの開発が進んだ現在、庭はこのチョウの重要な生息地となっており、守る活動が広がっています。



生垣に生えるトネリコ



トネリコを食べる幼虫



成虫



町の所々に生えるトネリコ

クロツバメシジミ

環境省レッドリスト準絶滅危惧

本州、四国、九州に生息しますが、とても生息地が局地的です。幼虫は、ツメレンゲなどの多肉植物を食べています。ツメレンゲは山地あるいは海岸の崖、河川敷などの岩場や石組みに生え、クロツバメシジミもこうした環境に見られるのですが、古い人家の石垣や屋根が重要な生息地となっている場合もあります。

最近では古い石垣が取り壊されることも多くなっており、このチョウも次第に減少しつつあります。



クロツバメシジミの発生する古い石垣



びっしり生えるツメレンゲ

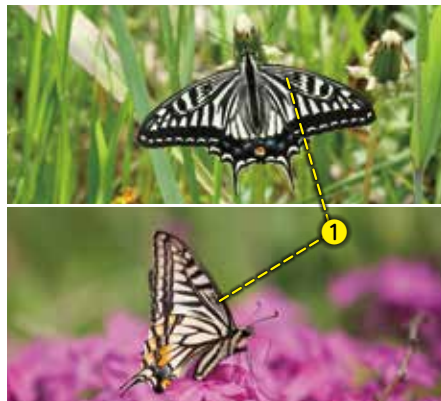


ツメレンゲを食べる幼虫



産卵する成虫

第5章 庭でよく見られるチョウ——成虫編



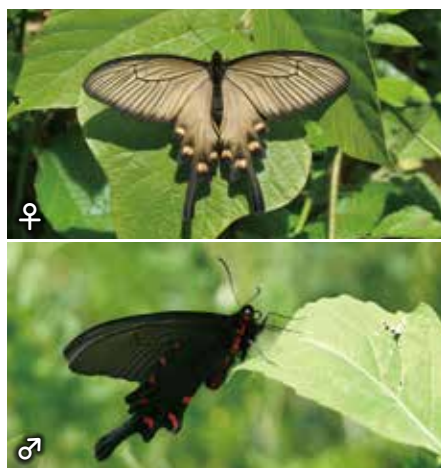
アゲハ

【識別】キアゲハと類似するが、①が黒い線状となる【分布】北・本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】サンショウやカラタチなどのミカン類各種【生息環境】人家や農地周辺、伐採地などのミカン類やサンショウが生える場所 ☺ミカン類を明るい場所に植えると発生する



カラスアゲハ

【識別】表が青緑色に輝く。類似種にミヤマカラスアゲハがいる【分布】北・本・四・九【時期】4～9月（多化性）【食草】サンショウ、カラスザンショウ、コクサギなど【生息環境】人家、公園、森林などの樹林地やその周辺 ☺樹木が茂った環境を好むため、食草の他、庭木を多く植える



ジャコウアゲハ

【識別】細長いシルエット。オナガアゲハに類似するが、体の側面が赤色【分布】本・四・九・南【時期】4～9月（多化性）【食草】ウマノスズクサ、オオバウマノスズクサなど【生息環境】河川堤防や農地周辺の草地や森林の林縁部など ☺食草を植えると、飛来して発生することが多い



キアゲハ

【識別】アゲハで示した点の他、地色はアゲハより黄色みが強い【分布】北・本・四・九【時期】4～10月（多化性）【食草】セリ、ミツバ、ニンジン、パセリほか【生息環境】平地～山地の明るい草原や湿地、樹林脇の草地 ☺パセリやニンジンなどを明るい場所に植えると発生する



ナガサキアゲハ

【識別】オスは全体が黒色、メスは後翅を中心に白い斑紋。裏面基部の赤斑①が特徴【分布】本・四・九・南【時期】5～9月（多化性）【食草】ナツミカン、ユズ、カラタチなどのミカン類【生息環境】農地、人家などのミカン類の植栽場所 ☺栽培ミカン類を好み、植えると発生しやすい



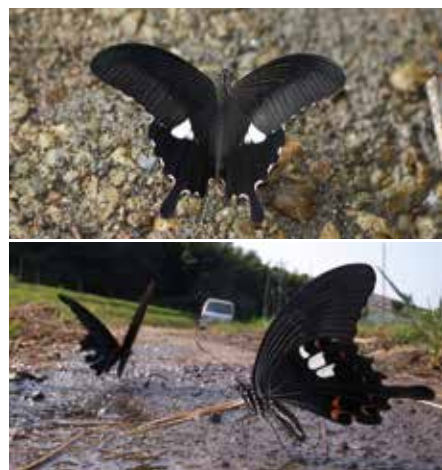
アオシアゲハ

【識別】翅の中央の水色の帯が特徴。類似種のミカドアゲハはこの帯の外側に斑点が並ぶ【分布】本・四・九・南【時期】5～10月（多化性）【食草】クスノキ、タブノキ、ゲッケイジュなど【生息環境】都市の街路樹や公園、森林などの樹林周囲 ☺クスノキを植栽し、定期的に剪定する



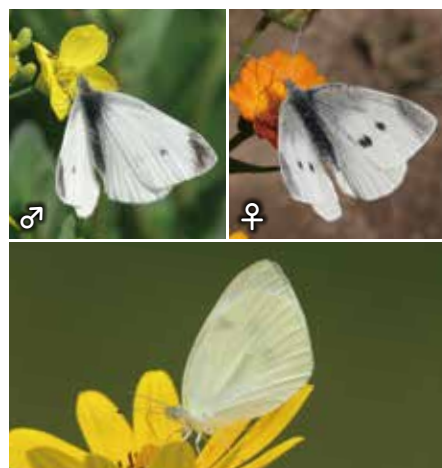
クロアゲハ

【識別】全体が黒色で、オスは後翅表の①に白い斑紋【分布】本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】ミカン類、ユズ、カラタチ、キンカンなど【生息環境】人家、公園、森林などの樹林地やその周辺 ☺産卵には樹木が茂ったやや暗い環境を好むため、庭木を多く植える



モンキアゲハ

【識別】全体が黒色で、後翅中央に大きな白斑があるのが特徴【分布】本・四・九・南【時期】5～9月（多化性）【食草】カラスザンショウ、ハマセンダン、栽培ミカン類【生息環境】農地、森林などの樹林周囲やミカン類の植栽地 ☺カラスザンショウを好み、植えると発生しやすい



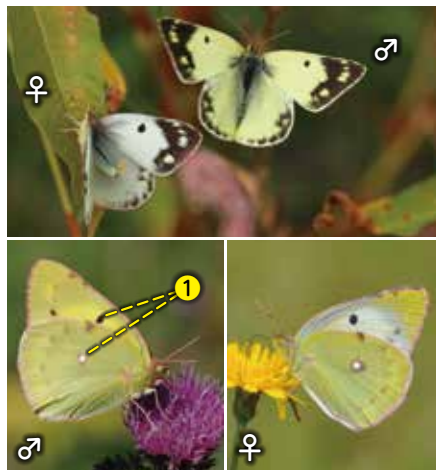
モンシロチョウ

【識別】スジグロシロチョウなどと類似するが翅脈が黒くならない【分布】北・本・四・九・南【時期】3～11月（多化性）【食草】キャベツ、アブラナ類、イヌガラシなど【生息環境】キャベツ畑や都市部の公園、人家周辺など ☺キャベツやハボタンなどの食草を植えると容易に発生する



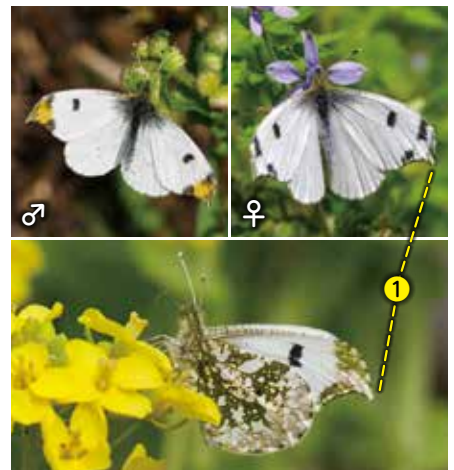
スジグロシロチョウ

【識別】モンシロチョウとは特に翅脈①の黒色で区別しやすい【分布】北・本・四・九【時期】4～10月（多化性）【食草】イヌガラシ、タネツケバナ、アブラナ類【生息環境】平地の都市部の公園から山地までの森林 ⑤樹林環境を好むため、庭木を多く植え、食草を植える



モンキチョウ

【識別】表は黒い縁取りと黒い斑点があり、裏は2つの斑点①が目立つ【分布】北・本・四・九・南【時期】3～11月（多化性）【食草】シロツメクサ、レンゲソウなど【生息環境】都市部、農地、河川周囲のやや広い草地 ⑤明るい場所に生えるシロツメクサやレンゲソウを除草せず残す



ツマキチョウ

【識別】前翅がカギ状に尖り①、黒い斑点、裏は雲状の模様【分布】北・本・四・九【時期】4～5月（年1化）【食草】イヌガラシ、ショカッサイ、セイヨウカラシナなどのアブラナ類【生息環境】森林、農地、都市部の樹林周囲の草地 ⑤樹林環境を好むため、庭木とともに食草を植える



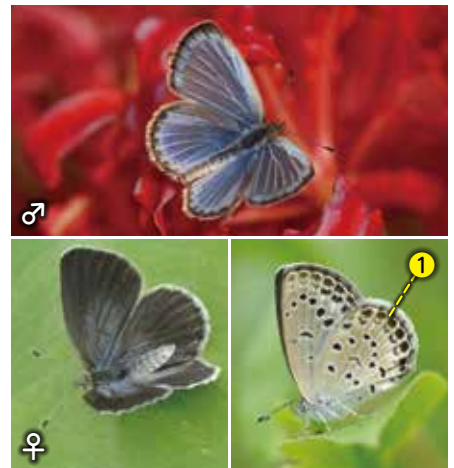
キタキチョウ

【識別】全体が黄色で、表は黒い縁取り、裏はぼやけた黒点がある【分布】本・四・九・南【時期】3～11月（多化性）【食草】ハギ類、ネムノキ、ギンヨウアカシアなど【生息環境】都市、農地、森林などの樹林周辺。庭のしげみで成虫が越冬すること多い ⑤食草を植えると発生しやすい



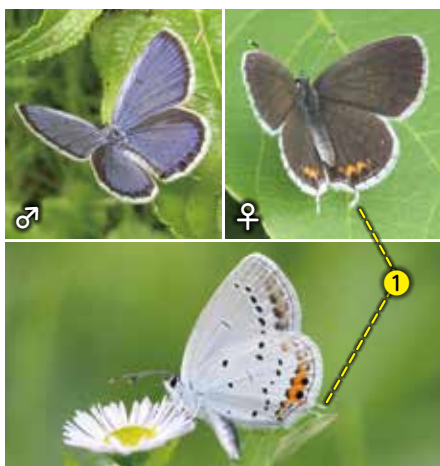
ベニシジミ

【識別】橙色の斑紋が特徴。夏型は表の橙色①が狭くなる【分布】北・本・四・九【時期】3月下旬～11月（多化性）【食草】スイバ、ギシギシなど【生息環境】農地や公園などの明るい草地 ⑤明るい草地を好むため残す。スイバやギシギシは雑草の代表だが年数回の刈り取りで対応



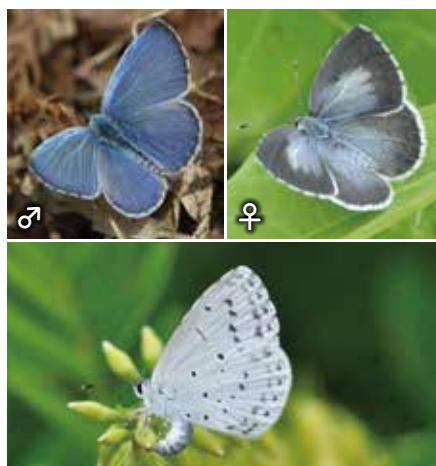
ヤマトシジミ

【識別】オスの表は白味を帯びた青色だが、メスは黒色部が広い。裏面の黒点列①は明瞭【分布】本・四・九・南【時期】4～11月（多化性）【食草】カタバミ【生息環境】人家や都市、公園、農地などの道端や草地 ⑤通路の脇などの明るい場所に生えるカタバミを間引き程度にして残す



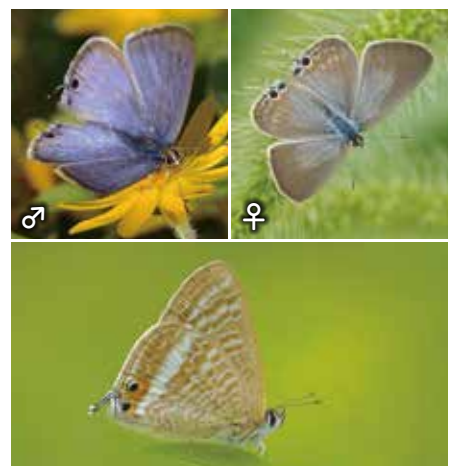
ツバメシジミ

【識別】尾状突起①があり、裏面に橙色の斑紋がある【分布】北・本・四・九【時期】4～10月（多化性）【食草】シロツメクサ、ハギ類、レンゲソウなどの各種マメ科【生息環境】公園や農地、河川堤防周辺などの明るい草地 ⑤草地を広めにし、シロツメクサやレンゲソウを除草せず残す



ルリシジミ

【識別】オスは表のルリ色が特徴。類似した種とは、裏面の模様で識別【分布】北・本・四・九【時期】3月下旬～10月（多化性）【食草】ヤマハギ、フジ、クララ、イタドリなど【生息環境】都市の公園、農地周辺から山地の森林まで幅広い ⑤ハギ類やフジなどを植えると発生しやすい



ウラナシジミ

【識別】裏は波状の模様。尾状突起はやや長い【分布】北・本・四・九・南【時期】7～11月。暖地で越冬し、世代を繰り返しながら北上する【食草】エンドウ、インゲンなどの栽培マメ類やヤマハギ、クズなど【生息環境】農地、公園、都市など各地 ⑤食草を植えると発生しやすい



ムラサキシジミ

【識別】表の青紫色と、裏の不明瞭な斑紋が特徴。類似のムラサキツバメは尾状突起がある【分布】本・四・九・南【時期】4～11月（多化性）【食草】アラカシ、コナラ、クヌギなど【生息環境】森林、公園、人家周辺 ☀️生垣にアラカシを使用すると新葉を利用して発生することが多い



ルリタテハ

【識別】表のルリ色の帯が特徴【分布】北・本・四・九・南【時期】4,6,8,10月頃（多化性）【食草】サルトリイバラ、ホトトギス、ヤマユリなど【生息環境】都市の公園や雑木林などの樹林周囲 ☀️ホトトギスを庭木の脇のやや暗い場所に植えると発生しやすい。カキの実にもよく集まる



コミスジ

【識別】表は黒色に複数の白帯がある。都市部に類似のホシミスジが生息する地域もある【分布】北・本・四・九【時期】5～9月（多化性）【食草】フジ、クズ、ニセアカシア、ハギ類などの各種マメ科【生息環境】雑木林、公園、農地周辺など ☀️フジなどの食草を植えることで発生する



ウラギンシジミ

【識別】裏は一面銀色。表は、オスに赤橙色、メスに白色の斑紋がある【分布】本・四・九・南【時期】4～11月（多化性）【食草】クズ、フジ、ハリエンジュなど【生息環境】樹林地や樹林の多い公園や人家など ☀️柿の実があると秋に成虫がよく集まり、常緑樹の植え込みで成虫越冬する



アカタテハ

【識別】表の赤色の模様が特徴。ヒメアカタテハと比べ、赤色の部分が少ない【分布】北・本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】カラムシ、イラクサなど【生息環境】公園や農地、河川堤防などの明るい草地 ☀️カラムシを植えるとともに、花壇を充実させると吸蜜に来る



ツマグロヒョウモン

【識別】後翅表の縁の黒帯と裏面の模様が特徴。メスは表の縁が黒い【分布】本・四・九・南【時期】4～11月（多化性）【食草】パンジーや各種スミレ類【生息環境】人家や公園、農地周辺などの明るい草原 ☀️パンジーやビオラなどのスミレの園芸種の花壇をつくると、発生しやすい



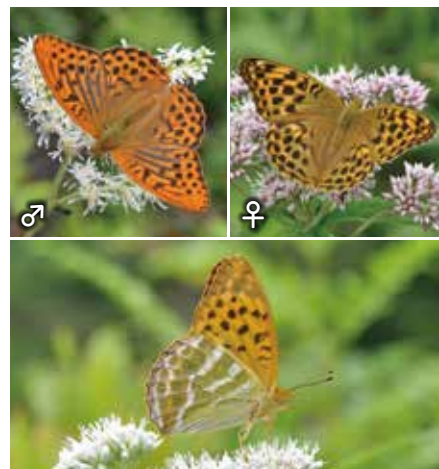
キタテハ

【識別】表がオレンジ色で黒い斑点があり、裏側は茶色の特徴的な斑紋【分布】本・四・九【時期】3～11月（多化性）【食草】カナムグラ、カラハナソウなど【生息環境】公園や農地、河川堤防などの明るい草地 ☀️秋の花壇や柿の実に吸蜜に来る。カナムグラは繁殖力が強く庭には不適



ヒメアカタテハ

【識別】表の赤色は桃色を帯びる。裏の地色はアカタテハより明るい【分布】北・本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】ハハコグサ、ヨモギなど【生息環境】公園や農地、河川堤防などの明るい草地 ☀️ヨモギは年に数回刈りこみ、ハハコグサは除草せず残すとしばしば発生する



ミドリヒョウモン

【識別】類似種が多く表での識別は難しい。後翅裏面の3本の白帯が特徴【分布】北・本・四・九【時期】6～9月（年1化、夏は夏眠）【食草】タチツボスミレなどの各種スミレ類【生息環境】樹林周囲の草地 ☀️秋になると移動するようになり、ヒヨドリバナなど花壇の花によく集まる



ゴマダラチョウ

【識別】 黒色に白い斑紋がある。春型は次種と類似するが、黒色部が広い【分布】 北・本・四・九【時期】 5～9月（多化性）【食草】 エノキ、エゾエノキなど【生息環境】 樹林地で、公園や人家などの小規模な樹林にも生息する ☺エノキを植えると発生しやすい。冬に根元の落ち葉を残す



アカバシゴマダラ 重点対策外来種

【識別】 後翅の赤い斑紋が特徴。春型は白色になる【分布】 本（関東地方から各地に広がる）【時期】 5～9月（多化性）【食草】 エノキ【生息環境】 都市部～森林域【外来種に注意】 大陸から人為的に持ち込まれた外来種で、重点対策外来種に指定されており、発見した場合には駆除が必要である



アサギマダラ

【分布】 北・本・四・九・南【時期】 5～10月（多化性）暖地で越冬し、春に北上、秋に南下する【食草】 キジョラン、イケマなど【生息環境】 海岸付近から山地の森林域まで広い ☺成虫はフジバカマ、ヒヨドリバナなどによく集まるため、これらを植えると移動中に訪れる頻度が高くなる



ヒメウラナミジャノメ

【識別】 後翅の裏の5つの目玉模様と波状の模様が特徴【分布】 北・本・四・九【時期】 5～9月（多化性）【食草】 ススキ、チガヤ、メヒシバなど【生息環境】 農地、林縁、河川等の樹林周辺の草地 ☺都市部では少ないチョウだが、自然が豊かな場所では、除草を徹底しなければ発生する



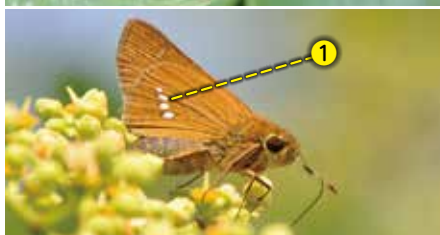
ヒメジャノメ

【識別】 裏は、目玉模様に白帯がある。類似種コジャノメよりも地色が明るい【分布】 北・本・四・九【時期】 5～9月（多化性）【食草】 イネ、チガヤ、ススキなど【生息環境】 農地、河川、樹林周囲の草地 ☺やや暗い場所を好むため、庭木を多く植え、除草を徹底せずイネ科の植物を残す



サトキマダラヒカゲ

【識別】 裏は多くの目玉模様と特徴的な濃淡の模様【分布】 北・本・四・九【時期】 5～6月と8～9月（多化性）【食草】 マダケ、アズマネザサなどのタケ・ササ類【生息環境】 雑木林などの森林。樹林が多い公園にも生息 ☺樹液の出るクヌギやコナラなどを植えると集まることがある



イチモンジセセリ

【識別】 類似種が多いが、後翅裏の4つの白点①が一列に並ぶ【分布】 北・本・四・九・南【時期】 5～11月（多化性）。暖地で越冬し、世代を繰り返しながら北上【食草】 イネ、チガヤなどの各種イネ科【生息環境】 都市、公園、農地などの草地 ☺秋に個体数が増加し、花壇に多数が集まる



チャバネセセリ

【識別】 後翅裏は、小さい白斑が弧状に並ぶ【分布】 本・四・九・南【時期】 5～11月（多化性）。暖地で越冬し、世代を繰り返しながら北上【食草】 イネ、チガヤ、ススキなどの各種イネ科【生息環境】 都市、公園、農地などの草地 ☺花壇によく訪れる。個体数はやや少ないが、秋に増加する



ダイミョウセセリ

【識別】 前翅表の白い斑紋が特徴。近畿以西では、後翅表にも白帯【分布】 北・本・四・九【時期】 5,7,9月頃（多化性）【食草】 ヤマノイモ、ナガイモなど【生息環境】 樹林周囲の林縁環境を好み、森林や公園、人家周辺でみられる ☺庭木を多く植え、その周囲にヤマノイモを除草せず残す

第5章 庭でよく見られるチョウ——卵・幼虫・蛹編

アゲハ

❄️越冬態：蛹



カラタチ（写真）、サンショウ、ナツミカン、ユズ、栽培種のみかん類など（ミカン科）



産卵場所：食草の若葉、新芽の上。
形状・色：ほぼ球形（直径1.2mm）。
産卵直後は淡黄色→黄橙色へ変化



4 齢まで：鳥の糞状（上）。5 齢（終齢）：淡緑色で体長約 50mm（下）。
類似種との識別⇒ 35 頁



褐色と緑色の 2 型あり。類似種との識別⇒ 35 頁

キアゲハ

❄️越冬態：蛹



ニンジン、ミツバ、パセリ、フェンネル、セリ、ハナウド（写真）など（セリ科）



産卵場所：食草の葉裏、花穂。形状・色：ほぼ球形（直径 1.2mm）。産卵直後は乳白色→褐色斑紋が出現



1 齢：ほぼ黒色。2-3 齢（上）：黒と橙のまだら模様で中央が白色。4 齢以降（下）：黄緑と黒の縞模様



食草から離れて蛹化。緑色系と褐色系（写真）の 2 タイプ

クロアゲハ

❄️越冬態：蛹



カラスザンショウ（写真）、ハマセンダングサ、栽培種の各種みかん類、カラタチなど（ミカン科）



産卵場所：食草の葉裏。形状・色：アゲハと色はほぼ同一。直径はやや大



4 齢まで：アゲハよりも滑らかでつやがある。終齢：濃緑色で体長約 55mm。類似種との識別⇒ 35 頁



近縁種同様、緑色系と褐色系（写真）の 2 タイプ。体長 30-35mm。類似種との識別⇒ 35 頁

ジャコウアゲハ

❄️越冬態：蛹



ウマノスズクサ（写真）、オオバウマノスズクサなど（ウマノスズクサ科）



産卵場所：食草の葉裏。卵塊も作る。形状・色：擬宝珠状（高さ 1.6mm）。橙色



多くの突起があり、終齢（下）では黒地に白い斜帯、赤い斑点。体長約 40mm



別名「お菊虫」。春～秋は黄色だが越冬するものは灰褐色。体長約 30mm

アオスジアゲハ

❄️越冬態：蛹



クスノキ（写真）、ゲッケイジュ、タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモなど（クスノキ科）



産卵場所：食草の新芽、茎など。形状・色：球形（直径1.3mm）で産卵直後は乳白色→赤・褐色紋出現



4 齢まで（上）：胸部に複数の突起。終齢（下）：細い黄色帯の両側が突き出す、体長約40mm



食草の葉裏、もしくは食草以外の人工物上。色：緑色（写真）と褐色系の2タイプ。体長約30mm

スジグロシロチョウ

❄️越冬態：蛹



イヌガラシ（写真）、タネツケバナ、ハタザオ類、ワサビ、アブラナ類など（アブラナ科）。野生種を好む



産卵場所：食草の葉裏や花穂など。形状・色：ペットボトル型。高さ1.3mm。乳白色→淡黄色



緑色でやや青味を帯びる。気門を囲む丸い黄色紋は1個のみ。背面線は無し。体長約30mm



概ね食草茎上で蛹化。緑色と褐色系の2タイプ。モンシロチョウに比較して胸背部などの突起が発達

モンシロチョウ

❄️越冬態：蛹



キャベツ（上）、ハボタン、アブラナ類、マメグンバイナズナ（下）など（アブラナ科）。栽培種を好む



黄緑色。気門線上に黄色紋が2個づつ並び、背面に淡黄色の線がある。体長約30mm



産卵場所：食草の葉裏や花穂など。形状・色：淡黄白色砲弾型→橙色（囲み）。高さ1mm、直径0.5mm



キャベツなどでは葉裏、軒下などの人工物上。緑色系と褐色系の2タイプ。体長約25mm

モンキチョウ

❄️越冬態：幼虫



アカツメクサ（上）、シロツメクサ（下）、レンゲソウ、カラスノエンドウなど（マメ科）



産卵場所：主として食草の葉表。形状・色：紡錘型。高さ1.3mm。白（産卵直後）→黄→暗赤褐色



終齢幼虫は緑色（上）。側面の黄白色の線が目立つ。体長約30mm。下は蛹になる直前の前蛹



食草上、もしくは食草外で蛹化。淡緑色で体長約25mm

ツマキチョウ

❄️越冬態：蛹



ショッカサイ、セイヨウカラシナ、イヌガラシ（写真）、ナズナ、ハタザオなど（アブラナ科）



産卵場所：花柄部を中心に茎や新葉の裏。形状・色：淡黄白色紡錘形→橙色（囲み）。高さ 1mm



1～2 齢（上：1 齢）は淡黄褐色。3～5 齢（下：5 齢）：食草に似た緑色。終齢の体長は約 25mm



食草を離れて草本類の茎や人工物上で帯蛹。淡～濃褐色。体長約 25mm

ベニシジミ

❄️越冬態：幼虫



スイバ、ギシギシ（写真）、ヒメスイバなど（タデ科）



産卵場所：食草根元付近の茎や葉など。形状・色：灰白色。直径 0.65mm、高さ 0.35mm



食草の葉裏などに潜む。緑色（上）と紅色を帯びたもの（下）の 2 型あり。体長約 15mm



食草の根際や枯葉などで蛹化

キタキチョウ

❄️越冬態：成虫



メドハギ（写真）、ギンヨウアカシア、ヤマハギなどのハギ類、ネムノキ、ハリエンジュなど（マメ科）



産卵場所：食草の葉上。形状・色：白色紡錘形。高さ 1.5mm、直径 0.5mm



若齢（上：2 齢）：青虫状。4 齢（下）～5 齢（終齢）：食草の葉に似た緑色。終齢の体長は約 30mm



食草の茎で帯蛹。淡緑色。体長約 20mm

ヤマトシジミ

❄️越冬態：幼虫



カタバミ（カタバミ科）



産卵場所：食草の葉裏。形状・色：白色。直径 0.5mm、高さ 0.25mm



淡緑色（写真）もしくは紫紅色。葉を裏から舐めるように食べる。体長約 12mm



食草根際や地上の砂礫などで蛹化。体長約 9mm。黄緑色型（写真）と淡褐色型あり

ルリシジミ



フジ、ハギ類 (写真)、クズ、クララ (マメ科)、ミズキ (ミズキ科)、イタドリ (タデ科) など



体色は蕾・花穂の色に酷似。クズでは淡紫色 (写真)。体長約 13mm

越冬態：蛹



産卵場所：食草・食草の蕾・花穂。形状・色：青白色。直径 0.6mm、高さ 0.3mm



食草の根際付近の枯葉などで蛹化。体長約 10mm

ムラサキシジミ



アラカシ (写真)、コナラ、クヌギ、カシワ、イチイガシ、ウラジロカシなど (ブナ科)



若齢は葉裏に潜む。3-4 齢は造巢性があり、アリが随伴することが多い。体長約 18mm

越冬態：成虫



産卵場所：食草の新芽や休眠芽 (越冬後個体が利用)。形状：直径 0.8mm、高さ 0.4mm



食草の葉裏や地表の枯葉下で蛹化。体長約 10mm

ウラギンシジミ



フジ、クズ (写真)、ハギ種、クロヨナなど (マメ科)



ルリシジミ同様、体色は食草に酷似。若齢 (上)・終齢 (下) 共に腹端付近に一对の突起。体長 20mm

越冬態：成虫



産卵場所：蕾・花・新芽など。形状：直径約 1mm



食草の葉表で蛹化。緑色で背面に白色スベード型の模様

ツマグロヒョウモン



園芸種のパンジー (写真) やビオラ、各種スミレ類 (スミレ科)



体長約 42mm。黒地に鮮やかな赤橙色の背線・棘状突起が目立つ

越冬態：幼虫



産卵場所：食草周辺の枯茎、枯葉など。形状・色：直径・高さ共に 0.7mm。淡黄白色→褐色



金色の斑紋有り。蛹化場所：食草から離脱して他植物・人工物上。体長約 27mm

ヒメアカタテハ

❄️越冬態：幼虫または成虫



ヨモギ（写真）、ハハコグサ、カワラヨモギ、シュンギク、ゴボウなど（キク科）



産卵場所：若葉の表。形状：直径・高さ共に約 0.6mm



終齢の体長約 40mm。上：3 齢、下：5 齢（終齢）。袋状の巣（食草写真矢印）を造り、内部に潜む



金色の斑紋有り。蛹化場所：巣から離脱し周辺で垂蛹。体長約 22mm

アカボシゴマダラ（外来種）

❄️越冬態：幼虫



エノキ（アサ科（旧分類ニレ科））



産卵場所：葉表。形状：高さ、直径共に約 1.5mm



体長約 45mm。背面突起は 2 齢で一对。終齢で 4 対。類似種との識別⇒ 35 頁



蛹化場所：エノキの葉表、枝。体長約 34mm。類似種との識別⇒ 35 頁

コムスジ

❄️越冬態：幼虫



フジ（写真）、ハギ類、クズ、ニセアカシア、ヤブマメなど（マメ科）



産卵場所：葉表の先端部。形状：直径約 0.7mm、高さ約 0.8mm



体長約 25mm。食草の中脈を切り、枯らした葉上に静止（上・矢印）。時に威嚇姿勢（下）



背面部に一对の金色斑紋有り。蛹化場所：葉裏で垂蛹。体長約 20mm

イチモンジセセリ

❄️越冬態：幼虫



チガヤ、ススキ（写真）、オヒシバ、イネ、ネザサなど（イネ科）



産卵場所：食草の葉表、茎、食草以外の植物、石礫など。形状：直径 1mm、高さ 0.65mm



複数の葉を綴った巢内に潜む。体長約 33mm。チャバネセセリとの識別⇒ 35 頁



幼虫同様、巢内で蛹化。体長約 25mm。チャバネセセリとの識別⇒ 35 頁

よく似た種類の識別ポイント

◆アゲハ（左）、クロアゲハ（中）、ナガサキアゲハ（右）の終齢幼虫・蛹の識別点



アゲハ：地色は明るい緑色。背面斜帯は緑色～青緑色（矢印）



クロアゲハ：地色は濃緑色。斜帯は茶褐色（矢印）



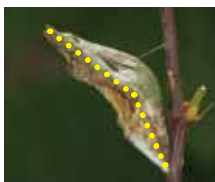
ナガサキアゲハ：地色は濃緑色。斜帯は白色（緑色微小斑点あり）（矢印）



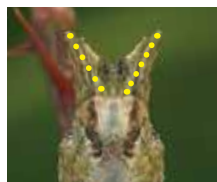
頭頂部と尾端部はほぼ直線上。背面は突き出す（矢印）



双耳状突起は短く、左右に大きく開く



頭頂部～尾端部は中央部で「くの字」状に曲がる



突起は長く、Vサイン程度に開く



クロアゲハに類似



突起は長いが開かず、平行に近い

◆アカボシゴマダラ（外来種）（左）とゴマダラチョウ（右）の幼虫・蛹の識別点



アカボシ：背面突起は4対（矢印A）。4齢以降、尾端突起対は閉じる（矢印B）



ゴマダラ：背面突起は3対（矢印A）。尾端突起対は開く（矢印B）



終齢幼虫は、白く細い斜帯が顕著（矢印C）。気門下に白色破線（矢印D）



終齢幼虫は、気門下破線が顕著な黄色（矢印D）



やや青味を帯びた緑色。背面突起はやや顕著（矢印E）



鮮やかな緑色。腹部に黄色線あり（矢印F）。背面突起に黄色い縁取り

◆イチモンジセセリ（左）とチャバネセセリ（右）の卵・幼虫・蛹の識別点



イチモンジ：淡褐色



チャバネ：白色でイチモンジセセリより大



頭部は淡褐色に濃褐色～黒色の複雑な模様（矢印）



頭部は緑色で赤褐色の「逆ハの字」模様（矢印）



巣を造り、淡褐色。頭部は尖らない（矢印）



巣は造らず、淡緑色。頭部が尖る（矢印）

近年の自然環境の大きな悪化とともに、多くの生きものが絶滅の危機に瀕しています。トキのような著名な種類ばかりでなく、チョウでも状況は同じで、多くの種が絶滅の危機にあります。日本チョウ類保全協会では、多様なチョウが息づく自然環境そのものを将来に残すことができるよう、絶滅の危機にあるチョウに重点を置きながら、調査や保全活動を行っています。

減少の著しいチョウたち

日本には、約 240 種のチョウが生息しています。しかし、そのうちの 70 種が国のレッドデータブックに掲載されており、全体の約 29% もの種が絶滅の恐れがあることが分かります。なかでも 25 種ほどは特に減少が著しく、絶滅の危機が大きくなっています。

チョウが減少した原因のほぼすべてに、人が大きく関係しています。道路や宅地、リゾート施設などの開発や植林などによる、生息環境そのものの破壊は目に見えて

分かりやすいですが、人々の生活の変化により、里山の環境が大きく変化したことも大きな要因です。さらに、海外から日本に持ち込まれた外来種が悪影響を与えたり、地球温暖化によって環境が変化していることも、近年、大きな問題になっています。

チョウを含めた多くの生きものは、現在でも環境の悪化による減少が続いており、このままでは将来、さらに多くの種が日本から姿を消すことが懸念されています。

現在、絶滅がもっとも危惧される種



ヒョウモンモドキ

生息地の 98% で絶滅し、現在は広島県の一部に生息するだけとなった。湿地に生息する。



オオウラギンヒョウモン

生息地の 95% で絶滅し、現在は山口県や九州の一部にわずかに残るだけとなった。広い草原に生息。



ウスイロヒョウモンモドキ

生息地の 87% で絶滅し、現在は兵庫、岡山、鳥取各県の一部の草原にわずかに見られるだけとなった。



オオルリシジミ

生息地の 83% で絶滅し、現在は長野、熊本、大分各県にわずかに生息するだけとなった。広い草原に生息。



オガサワラシジミ

世界で小笠原諸島にのみ生息する。外来種のトカゲであるグリーンアノールによって食べられ、激減している。



ツシマウラボシシジミ

日本では、対馬にのみ生息する。シカの増加によって環境が変化し、自然状態ではほぼいなくなってしまった。



ヒメチャマダラセリ

日本では、北海道のアポイ岳にのみ生息する。気候変動によって、生息できる環境が大きく減少している。



ゴイシツバメシジミ

原生林に生息する。森林伐採や植林によって生息地が失われ、現在は熊本県の一部に見られるだけとなった。

チョウを守る活動が広がっています

このような状況のなかで、チョウをシンボルに自然環境を守る活動が、全国各地で広がりつつあります。チョウを守る団体は全国で 80 以上にもなり、それぞれの団体では、チョウのすめる環境を維持するため、草刈りなどの整備を行ったり、チョウの状況を知るために調査を

続けているほか、普及・啓発のための観察会や各種イベントも実施しています。

それらの活動を受けて、地域的には一度減っていたチョウが再び増えるなどの、大きな成果が現れ始めています。

当協会へのご協力・ご支援をお願いします

- 美しいチョウが舞う自然を将来に残していくためには、多くの方々のご協力・ご支援が必要です。
- 日本チョウ類保全協会では、少しでも多くのチョウや豊かな自然を守るため、地域の方々と協力をしながら、全国各地で保全の取り組みを進めています。
- しかし、会の財政基盤が大きい現状では、十分な活動を進めることができていません。
- みなさん、一人一人のご参加が、チョウを、自然環境を守る大きな一歩となります。
- どなたでもご入会いただけます。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

当協会の主な活動内容

◆チョウ類保全のための活動

- 調査、生息地の保全活動、政策提言、地域団体へのアドバイス、ほか

◆チョウ類保全に関する普及啓発活動

- チョウ類保全のガイドブック作成、シンポジウム・展示会・写真展・観察会の開催、ほか



ニュースレター（会誌）

当協会への入会方法

- 趣旨にご賛同いただける方なら、どなたでもご入会いただけます。
- ◆会員になると、
- ニュースレター（会誌）をお届けします（年2回）。
 - 各種チョウ類保全の調査や保全活動、シンポジウムへのご案内をいたします。
 - チョウ類保全に関する情報収集のお手伝いや保全に関するご相談を受け付けます。
- ご入会の際には、会費を郵便局の郵便振替口座やゆうちょ銀行よりご納入ください。
- 郵便振替をご利用の際には、会員種別、入会年度、氏名、住所、電話番号、E-mail等を、振替用紙へご記入くださるようお願いいたします。ゆうちょ銀行をご利用の際には、お手数ですがこれらの情報を、E-mailや郵便で別途おしらせください。
- 折り返し、ニュースレターをお送りいたします。なお、当協会の会計年度は、1月1日～12月31日です。

◆郵便振替口座

加入者名：特定非営利活動法人
日本チョウ類保全協会
口座番号 00190-9-608140

◆ゆうちょ銀行

店名：〇一九（ゼロイチキユウ）店
当座 口座番号：0608140
名義：特定非営利活動法人
日本チョウ類保全協会

会員種別	会員資格	年会費	会誌の有無
正会員	個人および団体 総会での議決権あり	5,000円	あり
普通会員	個人 総会での議決権なし	3,000円	あり
子ども会員	18歳以下の個人	500円	あり
家族会員	正会員の家族の方	500円	なし
個人賛助会員	事業を賛助する個人	10,000円	あり
団体賛助会員	事業を賛助する団体（法人）	30,000円	あり
法人特別会員	本会を特別に支援する法人	100,000円	あり

本会では、私たちの活動を一緒に協働したり、ご協力・ご支援いただける法人様を募集しております。

CSR事業で、本冊子を利用して庭のチョウを調べたり、地域の環境を守る活動でチョウに注目してみたいはいかがでしょうか？ チョウは身近な自然に興味をもつ対象として、とてもわかりやすく、初めての方でも取り組みやすい対象です。

ご興味・ご関心をお持ちになりましたら、巻末に記載の連絡先に、お気軽にご連絡ください。

チョウの飼育方法 Q & A

チョウの飼育に関してよく受ける質問を、Q & A の形式でまとめました。

Q1

チョウの幼虫を育ててみたいのですが、どうすればよいでしょうか？

A1

チョウを飼育して観察することで、蛹から羽化する場面の感動はもとより、幼虫のさまざまな習性についての理解も深まります。

チョウは手軽に飼育できます。プラスチックのケースなどを幼虫の大きさや幼虫の数に合わせて利用し、新鮮な柔らかい葉を与え、葉が乾燥しないように、切り口を湿らせた脱脂綿やティッシュで巻いておきます。えさは、毎日または1日おきぐらいに交換し、その際に幼虫の糞などもきれいに掃除します。幼虫が大きくなると、容器に木の枝や割り箸などを入れておけば、そこを利用して蛹となります。

ポイントとしては、飼育容器を清潔に保つことが第一です。清潔でない場合、病気などが発生することがあります。



食品を入れる容器であるプリンカップは、様々な大きさがあり、飼育容器に最適

Q2

飼育したアゲハが冬の12月頃に蛹から羽化して成虫になってしまいました。どうすればよいでしょうか？

A2

冬の時期に、成虫を外に放してもすぐに死んでしまいますので、長生きをさせるには、プラスチックの容器などで飼育します。しかし、成虫の飼育は難しく、寿命も長くて2週間程度です。

蛹は冬に室内など暖かいところにおいておくと羽化してしまうため、外に置いておきましょう。また、日長で季節を判断している種類もあり、秋に明るい時間が野外よりも長い室内で飼育すると、冬を越すことができない蛹になって死んでしまいます。容器を屋外に置けば、これらの問題は防げます。



暖かい室内に蛹を置いておくと、外が寒い時期に羽化してしまうことが多いので注意

Q3

チョウの幼虫が鳥などに食べられるのか、すぐにいなくなってしまいます。無事に成虫になるにはどうすればよいでしょうか？

A3

飼育ケースで飼育する以外に、食草に袋をかけて、鳥や他の昆虫類などの天敵が入れないようにする方法もあります。これは「袋がけ」と呼ばれ、ナイロンなどの細かいネットで、幼虫をそのまわりの食草と一緒にすっぽりと覆います。

袋の中には、十分なえさが入るようにしますが、えさがなくなりそうになった場合は、幼虫を袋ごと別の枝などに移動させます。このようにして、蛹まで成長したら、袋を外します。なお、24ページで紹介したように、チョウの幼虫は、鳥などの他の生きものの餌としても大切です。自然界のバランスも考えながら、チョウだけを増やしすぎないように、適宜行ってください。



洗濯ネットなどを利用して、枝にくくりつけることで、鳥やハチなどの天敵を防ぐことができる

さらに詳しく知るために

チョウについてさらに詳しく知る際に、特に参考になる書籍を下記に紹介しました。

■チョウの庭について

「バタフライガーデン入門」1999年、農山漁村文化協会。定価 2,286 円

■チョウの成虫について

「フィールドガイド日本のチョウ」2012年、誠文堂新光社。定価 1,800 円

「日本産蝶類標準図鑑」2006年、学習研究社。定価 7,000 円

■チョウの生態について

「原色日本蝶類生態図鑑」Ⅰ～Ⅳ。1982～1984年、保育社。定価 5,000 円前後

■チョウやその他の卵、幼虫、蛹について

「イモムシハンドブック」「イモムシハンドブック 2」「イモムシハンドブック 3」

2010, 2012, 2014 年、文一総合出版。定価各 1,400 円

「庭のイモムシケムシ」「道ばたのイモムシケムシ」

2011, 2012 年、東京堂出版。定価各 1,600 円

「虫の卵ハンドブック」2012年、文一総合出版。定価 1,600 円

「繭ハンドブック」2013年、文一総合出版。定価 1,400 円

「日本産幼虫図鑑」2005年、学習研究社。定価 18,000 円

※本の定価はいずれも税抜き価格です。

《参考文献ほか》

- 1) 海野和男 (1999) バタフライガーデン入門。農山漁村文化協会。
- 2) 日本チョウ類保全協会編 (2012) フィールドガイド日本のチョウ。誠文堂新光社。
- 3) みんなで作る日本産蛾類図鑑編 (2011) 庭のイモムシケムシ。東京堂出版。
- 4) 石井実 (2003) 庭のチョウのモニタリング調査 1997～2002 年の結果。
日本産蝶類の衰亡と保護第 5 集, 225-242。日本鱗翅学会。
- 5) 牧林功 (1985) チョウとつきあう本。日本交通公社。
- 6) NPO 法人 生態教育センター「お庭の生きもの調査」
- 7) Henry P-Y, Manil L, Cadi A, Julliard R (2005) Two national initiatives for butterfly monitoring in France, pp. 85. In: Kuehn E et al.(eds) Studies on the ecology and conservation of Butterflies in Europe. Vol 1: General concepts and case studies. Pensoft Publishers, Bulgaria.
- 8) The French Garden Butterfly Monitoring のウェブサイト: <http://www.noeconservation.org/>
- 9) 久居宣夫 (2009) 自然教育園および新宿御苑の蝶類。自然教育園報告 40: 9-45.
- 10) 久居宣夫・矢野亮・久保田繁男 (2006) 皇居の蝶類相モニタリング調査 (2000-2005)。
国立科博専報 43: 137-159.

庭のチョウ — 身近なチョウを楽しもう —

©2014 JAPAN BUTTERFLY CONSERVATION SOCIETY

発行日: 2014年1月31日 (初版)、2017年1月31日 (改訂版)

著者: 中村康弘、佐々木幹夫

編集: JBCS庭のチョウ類プロジェクト— 井上晴子、黒沢美菜子、
近藤万里、佐々木幹夫、鶴藤俊和、永井 信、永幡嘉之、中村康弘、
松村行栄、溝田浩二

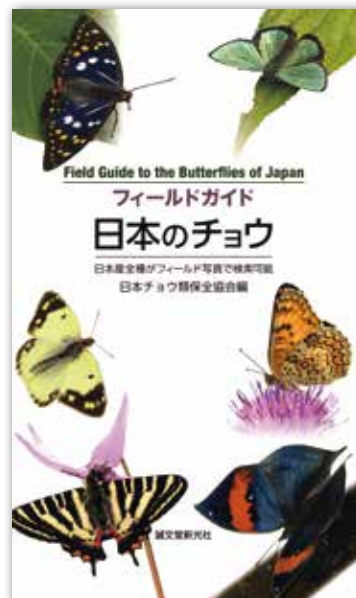
発行者: 特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会 (JBCS)

デザイン: 株式会社レモリノ (柏木 賢一郎)

写真提供者: 秋元俊夫、秋山昌範、井上晴子、内田秀雄、大橋田鶴子、
小田康弘、木村藤香、黒坂桐子、小林信夫、小林望光、
近藤栄作、近藤万里、佐々木幹夫、佐藤伸一、塩 昭夫、
鈴木 隆、高崎 明、竹内 剛、田中和良、津田増夫、
鶴藤俊和、戸苅 淳、永井 信、中村康弘、永幡嘉之、
成田智哉、益永 葉、溝田浩二、村越 一、村野隆夫、
足立区生物園

表紙イラスト: 吉川千賀子 目次イラスト: 萩原和奈可

本誌に掲載の原稿、写真、図版を問わず、
その全部または一部の無断転載を禁じます。



フィールドガイド日本のチョウ

特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会

Japan Butterfly Conservation Society (JBCS)

事務局

〒140-0014 東京都品川区大井4-1-5-201

TEL・FAX: 03-3775-7006 携帯: 080-5127-1696

E-mail: jbcsc@japan-inter.net

URL: <http://www.japan-inter.net/jbcsc/>



この冊子は積水ハウス株式会社及び
積水ハウスマッチングプログラムから
の助成によって作成されました。

